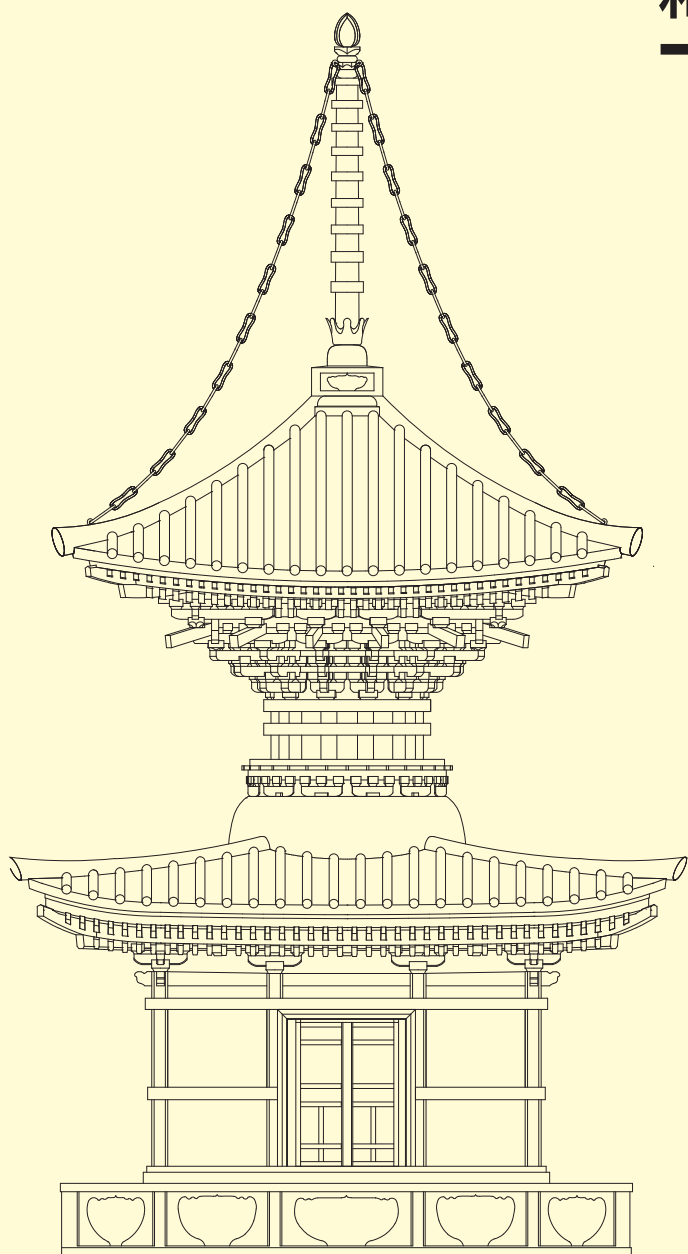




公益財団法人
和歌山県文化財センター年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2016





1 寺内古墳群、相方遺跡第2次発掘調査 4区 102・189 竪穴建物（南西から）



2 新宮城下町遺跡第1次発掘調査 1249 半地下式倉庫（方形竪穴）



3 広八幡神社拝殿(竣工)



4 宝来山神社本殿・末社(竣工)



6 総持寺鐘(竣工)



5 安楽寺多宝小塔(竣工)



7 高原熊野神社本殿(竣工)



8 継桜王子跡社殿(竣工)

目 次

平成 28（2016）年度 受託業務一覧……………	1	平成 28（2016）年度 受託業務所在地図……………	2
---------------------------	---	-----------------------------	---

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等

中飯降遺跡の発掘調査等……………	3
和歌山市内遺跡発掘調査等支援……………	3
寺内古墳群、相方遺跡の第 2 次発掘調査……………	4
藤並地区遺跡の第 2 次発掘調査……………	5
吉原遺跡の発掘調査……………	6
新宮城跡、新宮城下町遺跡の第 1 次発掘調査 ……	7
新宮城下町遺跡の確認調査（1）支援……………	8
新宮城下町遺跡の確認調査（2）支援……………	8
根来寺遺跡、山口古墳群の第 2 次出土遺物等整理 ……	9
平井遺跡、平井Ⅱ遺跡の第 2 次出土遺物等整理 ……	10
佐野廃寺の出土遺物整理支援……………	10

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 広八幡神社本殿ほか 5 棟の保存修理 ……	11
重要文化財 宝来山神社本殿の保存修理、県指定文化財 宝来山神社末社東殿・西殿の保存修理 ……	11
重要文化財 安楽寺多宝小塔の保存修理 ……	12
重要文化財 旧西村家住宅ほか 2 棟の保存修理……………	13
重要文化財 琴ノ浦温山荘茶室の美装化事業 ……	14
県指定文化財 総持寺総門・鐘楼の保存修理……………	14
県指定文化財 高原熊野神社本殿の保存修理……………	15
国史跡 熊野参詣道史跡等保存整備 ～継桜王子跡社殿の保存修理～……………	16
県指定（史跡）切部王子跡保存修理 ～本殿及び拝殿の保存修理～……………	17
国登録文化財 みそや別館の保存修理……………	18
重要文化財 濱口家住宅と登録文化財旧戸田家 住宅の保存活用計画策定……………	18

関連研究・資料紹介

和歌山県内出土埴輪の蛍光 X 線分析……………	19	大岡寛博士文庫に所収される 安楽寺多宝小塔関連資料……………	31
		西村伊作氏の「住家」に対する考えと思い……………	35

普及活動

平成 28（2016）年度の普及啓発事業 ……	39
-------------------------	----

センター概要

平成 28（2016）年度概要 ……	41
--------------------	----

巻 頭 写 真

- | | |
|---|------------------|
| 1 寺内古墳群、相方遺跡第 2 次発掘調査
4 区 102・189 竪穴建物（南西から） | 4 宝来山神社本殿・末社（竣工） |
| 2 新宮城下町遺跡第 1 次発掘調査 1249 半地下式倉庫
（方形竪穴） | 5 安楽寺多宝小塔（竣工） |
| 3 広八幡神社拝殿（竣工） | 6 総持寺鐘楼（竣工） |
| | 7 高原熊野神社本殿（竣工） |
| | 8 継桜王子跡社殿（竣工） |

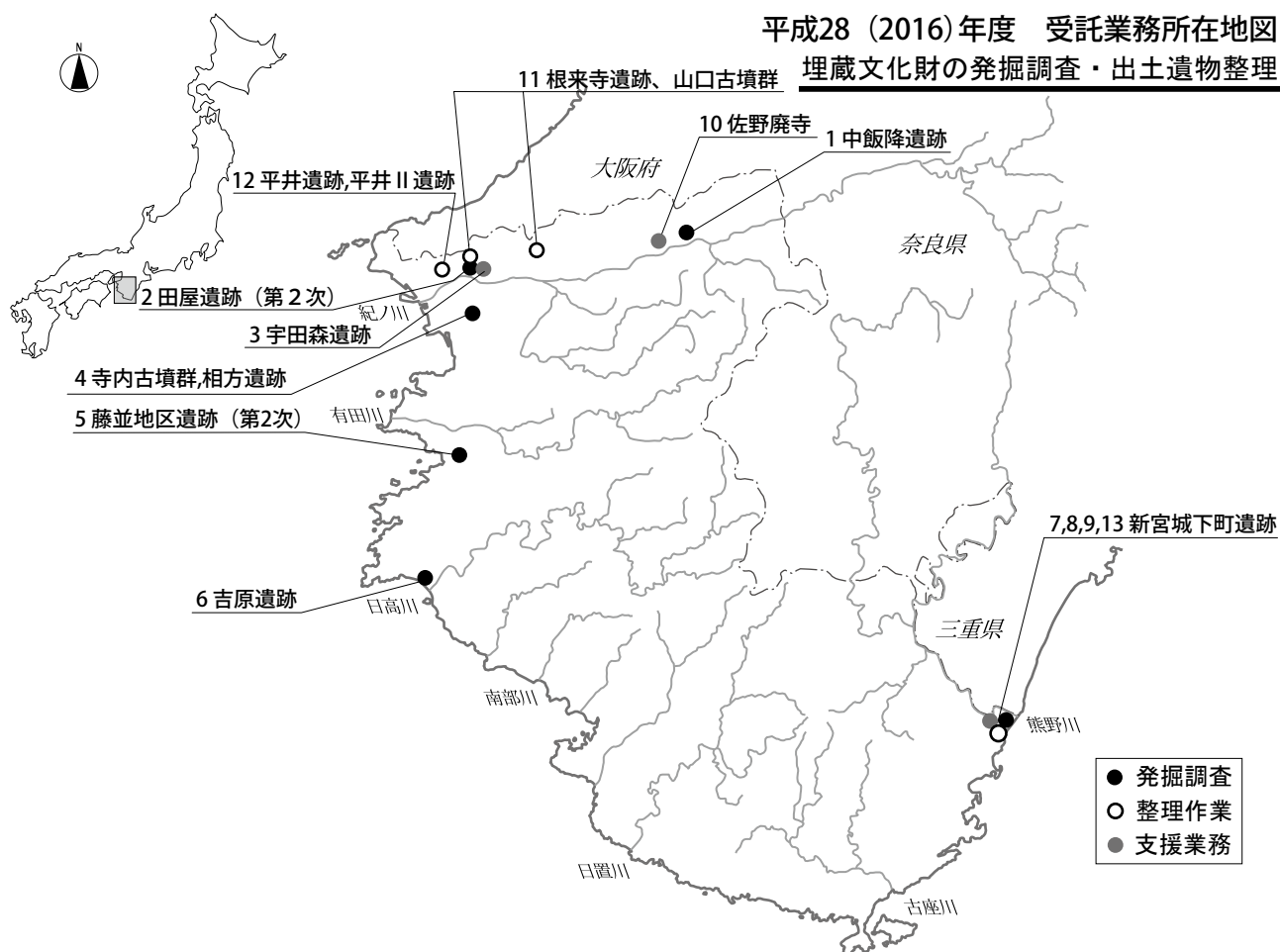
例 言

- 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが平成 28 年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務、および普及活動の成果をまとめたものである。
- 掲載した地図は、和歌山県教育委員会が発行する『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』2004～2006 年度（地図は国土地理院発行の数値地図 1：25,000 の複製）および数値地図 1：25,000 の複製を一部加筆し引用した。また、各自治体の発行する 1：2,500 都市計画基図を一部加筆し引用したほか、電子国土（<http://cyberjapan.jp>）提供図の複製を用いた。
- 掲載写真・図面は、基本的に調査および整理中に撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理作業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 掲載した座標値は、平面直角座標系第 VI 系（世界測地系）による。
- 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、寺本就一・加藤達夫が担当した。

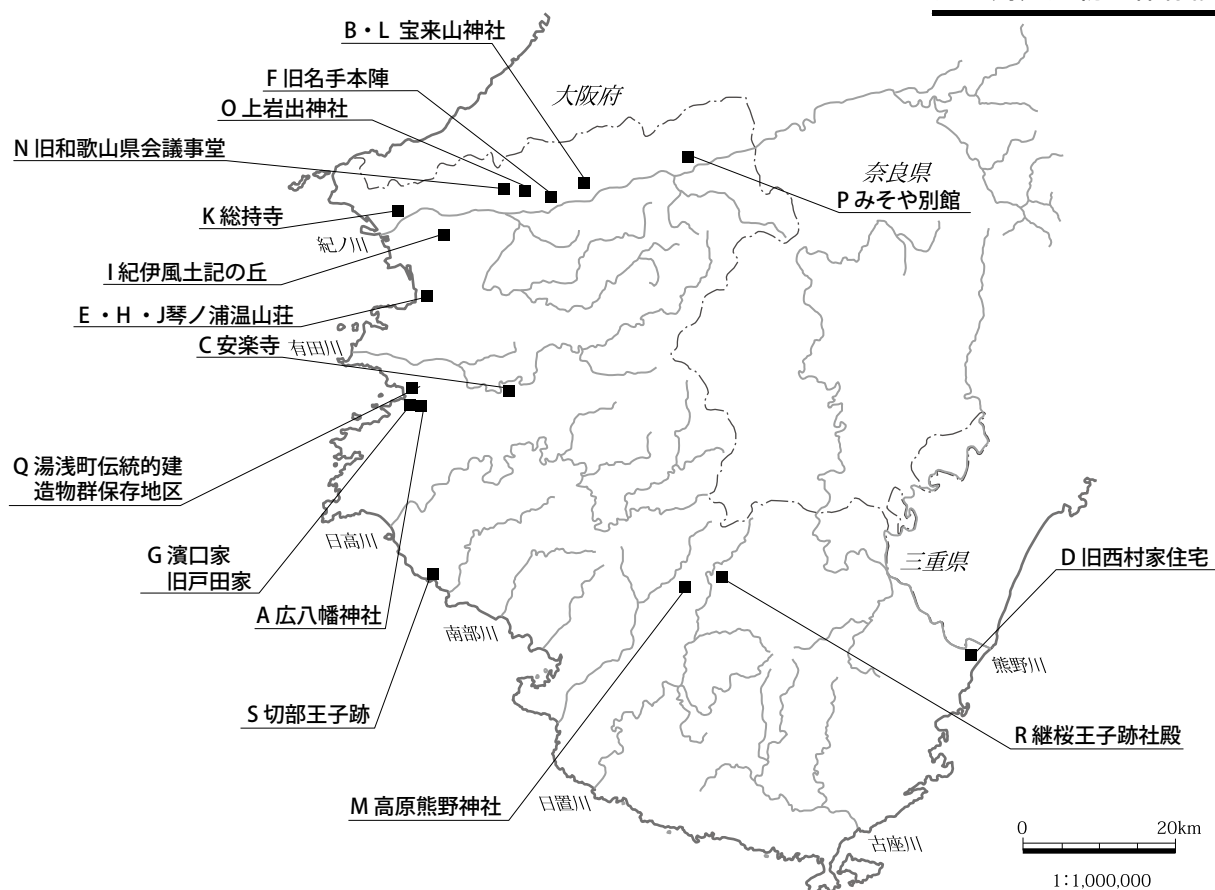
平成 28（2016）年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	一般国道 24 号京奈和自動車道建設に伴う中飯降遺跡発掘調査等業務	伊都郡かつらぎ町中飯降	2016.04.09 ～ 2017.03.31	138㎡	国土交通省 (近畿地方整備局)
2	県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴う田屋遺跡第 2 次発掘調査業務	和歌山小豆島	2017.02.02 ～ 2017.07.31	301㎡	和歌山市
3	和歌山市内遺跡発掘調査等に係る発掘支援業務	和歌山市島	2017.02.15 ～ 2017.03.31	301㎡	(公財)和歌山市文化 スポーツ振興財団
4	海草振興局建設部庁舎移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業に伴う寺内古墳群、相方遺跡発掘調査等業務	和歌山市森小手穂	2016.04.16 ～ 2017.03.31	1,904㎡	西日本高速道路株式 会社・和歌山県
5	一般国道 42 号（湯浅御坊道路）4 車線化事業に伴う第 2 次藤並地区遺跡埋蔵文化財発掘調査業務	有田郡有田川町天満・水尻	2016.03.01 ～ 2016.09.30	2195㎡	西日本高速道路株式 会社
6	都市防災総合推進事業に伴う古原遺跡発掘調査等業務	日高郡美浜町吉原	2016.06.23 ～ 2017.03.31	384㎡	美浜町
7	新宮市文化複合施設建設に伴う新宮城跡、新宮城下町遺跡第 1 次発掘調査業務	新宮市下本町・新宮	2016.01.08 ～ 2016.07.29	1,171㎡	新宮市
8	新宮城下町遺跡確認調査（1）支援業務	新宮市下本町	2016.09.13 ～ 2016.11.25	220㎡	新宮市
9	新宮城下町遺跡確認調査（2）支援業務	新宮市下本町	2016.09.13 ～ 2016.12.09	746㎡	新宮市
10	平成 28 年度かつらぎ町出土遺物等整理支援業務	伊都郡かつらぎ町佐野	2016.01.13 ～ 2017.03.31	—	かつらぎ町
11	一般国道 24 号京奈和自動車道建設に伴う根来寺遺跡、山口古墳群第 2 次出土遺物等整理業務	岩出市根来 和歌山市山口	2016.07.22 ～ 2017.03.31	—	国土交通省 (近畿地方整備局)
12	第二阪和国道建設に伴う平井遺跡、平井Ⅱ遺跡第 2 次出土遺物等整理業務	和歌山市平井	2016.04.06 ～ 2017.03.31	—	国土交通省 (近畿地方整備局)
13	新宮城下町遺跡第 1 次出土遺物等整理業務	新宮市下本町	2017.01.10 ～ 2017.03.31	—	新宮市
文化財建造物の設計整理業務等					
	受託業務名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	重要文化財 広八幡神社本殿ほか 5 棟保存修理技術指導	有田郡広川町上中野	2016.04.01 ～ 2016.09.30	6 棟	宗教法人 広八幡神社
B	重要文化財 宝来山神社本殿保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町萩原	2016.04.01 ～ 2016.09.30	4 棟	宗教法人 宝来山神社
C	重要文化財 安楽寺多宝小塔保存修理技術指導	有田郡有田川町二川	2016.04.01 ～ 2017.03.31	1 棟	宗教法人 安楽寺
D	重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか 2 棟保存修理事業に係る設計監理	新宮市伊佐田	2016.04.12 ～ 2017.03.31	3 基	新宮市
E	重要文化財 琴ノ浦温山荘茶室を活用した地域活性化事業技術指導	海南市船尾	2016.06.15 ～ 2016.09.30	1 棟	公益財団法人 琴ノ浦温山荘園
F	重要文化財 旧名手本陣妹背家住宅保存修理に伴う基本設計	紀の川市名手市場	2016.08.03 ～ 2017.03.31	2 棟	紀の川市
G	重要文化財 濱口家住宅保存活用計画及び旧戸田家住宅保存活用計画作成	有田郡広川町広	2016.09.06 ～ 2017.03.31	—	株式会社 アスコ大東
H	重要文化財 琴ノ浦温山荘主屋西側保存修理技術指導	海南市船尾	2016.11.07 ～ 2016.12.28	1 棟	公益財団法人 琴ノ浦温山荘園
I	重要文化財 紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指導（旧柳川家住宅）	和歌山市岩橋	2016.11.18 ～ 2017.03.03	1 棟	和歌山県 (県立紀伊風土記の丘)
J	重要文化財 琴ノ浦温山荘主屋東側・南側保存修理技術指導	海南市船尾	2017.01.25 ～ 2017.03.31	1 棟	公益財団法人 琴ノ浦温山荘園
K	県指定文化財 総持寺総門及び鐘楼保存修理技術指導	和歌山市梶取	2016.04.01 ～ 2017.01.27	2 棟	宗教法人 総持寺
L	県指定文化財 宝来山神社末社東殿・西殿保存修理技術指導	伊都郡かつらぎ町萩原	2016.04.01 ～ 2016.09.30	2 棟	宗教法人 宝来山神社
M	県指定文化財 高原熊野神社本殿保存修理技術指導	田辺市中辺路町高原	2016.04.01 ～ 2017.03.31	1 棟	宗教法人 熊野神社
N	県指定文化財 旧和歌山県会議事堂工事報告書図面作成技術支援	岩出市根来	2016.11.26 ～ 2017.01.31	1 棟	和歌山県 (文化遺産課)
O	県指定文化財 上岩出神社本殿保存修理に伴う基本設計	岩出市北大池	2016.12.15 ～ 2017.03.31	1 棟	宗教法人 上岩出神社
P	登録文化財 みそや別館主屋ほか 2 棟保存修理技術指導	橋本市橋本	2016.04.01 ～ 2017.02.28	3 棟	谷口善志郎
Q	伝統的建造物群保存地区 湯浅伝建地区保存修理技術指導等	有田郡湯浅町湯浅	2016.04.19 ～ 2017.03.24	—	湯浅町
R	史跡 継桜王子跡社殿保存修理技術指導	田辺市中辺路町野中	2016.05.19 ～ 2017.03.31	1 棟	田辺市
S	史跡（県指定） 切部王子跡社殿保存修理技術指導	日高郡印南町西ノ地	2016.11.14 ～ 2017.03.31	1 棟	宗教法人 切目神社

平成28（2016）年度 受託業務所在地図 埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物整理



文化財建造物の保存修理



中飯降遺跡の発掘調査等

遺跡の時代：縄文時代
所 在 地：伊都郡かつらぎ町中飯降
調査の原因：京奈和自動車道（紀北東道路）建設
調査等期間：2016.04～2017.03
調査コード：16-13・014

はじめに

京奈和自動車道建設工事に伴う発掘調査において縄文時代後期の西日本最大規模を誇る大型竪穴建物4棟が検出された地区の南東隣接地で、かつらぎ町道の付替工事が予定されたため、発掘調査を実施した。さらに、大型竪穴建物4棟のうち1棟の立体剥ぎ取りが平成20・21年度の発掘調査の際に実施されていたため、その移設復元を併せて実施した。

調査の成果

縄文時代大型竪穴建物の南東隣接地だが、落ち込み状遺構、溝、土坑をわずかに検出したに留まる。縄文時代の遺構は南側には展開するが、東側には展開しない

い公算が高いことを確認した。落ち込み状遺構では石器素材の出土が目立つ。

移設復元

京奈和自動車道の高架下に設けられた設置坑内に繊維強化プラスチック製大型竪穴建物の部材33個を、3次元の位置関係を復元して設置した。これにより、一分の一スケールの形状及び遺構表面の土壌の保存を達成することができた。今後は、かつらぎ町教育委員会による活用が期待される。（藤井 幸司）



移設復元が完了した大型竪穴建物

和歌山市内遺跡発掘調査等支援業務

遺跡の名称：宇田森遺跡
所 在 地：和歌山市島
調査の原因：宅地開発
調査期間：2017.02～2017.03

今回の調査は弥生時代の遺跡として著名な宇田森遺跡内の宅地開発に伴うもので、宅地内の新設道路部分について公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団が発掘調査を実施することとなった。当センターでは、この発掘調査を支援することとなり、市財団の担当職員と協議の上、現地において調査に当たった。調査地は、宇田森遺跡の北東縁辺部と考えられている場所であり、大屋都比売神社の北東約100mに位置している。

支援業務としては、機械掘削及び遺構掘削の指示のほか、遺構図面の作成や写真撮影などを行った。

また、調査終了後には調査内容の所見を作成し提出している。なお、今回の調査では2面の遺構面の調査

を行った。

第1遺構面では、大量の弥生土器が出土した幅1.2m～3.3m、深さ1.1mを測る弥生時代後期に帰属する溝を検出した。第2遺構面では、直径6.85m、深さは0.15mほどを測る円形の竪穴建物を検出した。中央部に炉を伴ったもので、炉の直径は0.5m、深さ0.4mを測る。炉の周囲には掻き揚げられた炭が円形状に薄く遺存しており、この部分が2cmほど盛り上がった炉堤状を呈していた。（村田 弘）



竪穴建物全景（北から）

寺内古墳群、相方遺跡の第2次発掘調査

遺跡の時代：弥生時代末～中世

所在地：和歌山市森小手穂、吉礼、西

調査の原因：海草振興局建設部庁舎移転外事業及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設事業

調査期間：2016.05～2016.11

調査コード：16-01・187 寺内古墳群

16-01・440 相方遺跡

はじめに

本調査は、和歌山県および西日本高速道路株式会社が計画した海草振興局建設部庁舎移転外及び、近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設に伴い実施した。寺内古墳群は、周知の埋蔵文化財包蔵地として知られているほか、相方遺跡は、事前の分布調査及び試掘調査により、種別を散布地として新たに認定された包蔵地である。

既往の調査としては、昭和42年に寺内59号墳及び60号墳の発掘調査がある。両古墳とも後世の石材採取により大きく破壊されていたが、墳丘の形状は円墳で内部構造は、結晶片岩の割り石を小口積みした横穴式石室で、いずれも南東側に開口していた。59号墳からは金環、管玉、須恵器子持壺の一部が、60号墳からは鉄刀、鉄鏃、須恵器片が出土した。

調査の成果

調査地の現況は、西向きに開口する谷の谷頭につくられた、比高3m程度の段々畑である。対象面積は1,904㎡で、調査区を4区、5区、6区に分けて調査を行った。調査により確認された主な遺構は、4区で

は緩斜面地で5棟の竪穴建物、2棟の掘立柱建物、鎌倉時代の石組溜枥を検出した。4区中央のやや南側には西流する幅6m程度の自然流路が検出された。5区では旧地形は急斜面地と、自然流路が大半を占め、平坦地は僅かであった。5区の北東隅で中世の掘立柱建物が1棟検出されたほか、西側の斜面地で中世の段状遺構が検出された。4区から続く自然流路は5区で幅が広がり、5区外の西側へとさらに延びていることが確認された。4区の北側に展開する6区は、旧地形が緩斜面地で、重複関係にある2棟の竪穴建物が検出された。

竪穴建物の多くは、その埋土からの出土遺物から庄内併行期最終段階から布留式併行期に埋没したものと考えられる。自然流路については、流路埋土の中層から、弥生時代後期、庄内併行期、布留式併行期の土器のほかに、中世の遺物が出土する。このことから、流路の幅員が広がり規模が大きくなる過程で、既存の遺構群を浸食し、その浸食により損壊された遺構群に包含されていた遺物群が中世段階に再堆積したものと考えられる。自然流路は、再堆積を繰り返し中世には完全に埋没したと考えられる。

まとめ

当遺跡とその周辺はかつて日前宮領であった。今回の調査地の中世の遺構は、4区で検出された溜枥と5区で検出された掘立柱建物がある。調査地の西側を南流する水路の前身は日前宮が開発した宮井新川と考えられ、今回検出された遺構が新川の開発や領地の経営との関連する可能性がある。（加藤 達夫）



4区調査区（上空から）



4区石組溜枥（南西から）

藤並地区遺跡の第2次発掘調査

遺跡の時代：中世
所在地：有田郡有田川町天満、水尻
調査の原因：一般国道42号湯浅御坊道路の4車線化
調査期間：2016.04～2016.08
調査コード：15－21・032－2

はじめに

本調査は、西日本高速道路株式会社により一般国道42号の4車線化事業が計画され、その予定地が埋蔵文化財包蔵地内にあたる。現国道の東側に沿って第1次調査（平成27年度）と第2次調査を実施した。調査区は北から1～12区とし、第1次調査で1・5・8・11区を、第2次調査で2・3・4・6・7・9・10・12区を調査した。調査面積は計2,195㎡である。

調査の成果

3区においては粘土採掘坑と思しき土坑を検出した。ここからの出土遺物は皆無であった。4区の北側で土坑を6基検出し、この内の2基からは瓦器片が出土した。南側では南北方向の直線的な踏み込み遺構を検出したことから、中世には水田であったと思われる。

6区の北端で微高地を検出した。微高地は北と西側に延びるものと考えられる。南側は中世の水田層と思われる、直線的な踏み込み遺構を数条検出した。9区の東側と10区の西側において微高地から水田あるいは湿地への落ち際を検出した。微高地と湿地の境には直径5～8cmの杭が0.4～0.6m間隔で打設されていた。この状況から、落ち際には板材等により境界を明示していた公算が高い。今回の調査では、全区で、中世水田層や湿地状地形を確認した。中でも9区・10区・12区では狭小な範囲ではあるが微高地の縁辺部を検



出した。微高地は、調査区の東側の現在民家が立ち並んでいる一帯に展開することが推測され、当該地域の生活域の主体を成していたと考えられる。

（佐伯 和也）

9区での微高地の検出状況（南から）

田屋遺跡の第2次発掘調査

遺跡の時代：弥生～古墳、奈良、平安
所在地：和歌山市小豆島
調査の原因：県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業
調査等期間：2017.02～2017.06
調査コード：16－01・093

はじめに

県道紀伊停車場田井ノ瀬線道路改良事業に伴い田屋遺跡の第2次発掘調査を実施した。調査は昨年度実施の第1次調査の北側及び南側で実施した。調査区は、北側を2-1区、南側を北から2-2区、南を2-3区とした。平成28年度は、2-1区の発掘調査を実施した。

調査の成果

2-1区の発掘調査を行ったところ、調査対象範囲約60㎡のうち、北側の大半が既設の水路により遺構面が削平されていることが判明した。そのため、遺構

が検出できたのは、幅約0.5m、長さ約23m、面積約11㎡程度である。遺構は、基盤層であるマンガンを含む黄褐色砂質土上面に展開しており、中世とみられる落ち込み状遺構を1基並びにピットを1基検出した。落ち込み状遺構は、第1次発掘調査3区で検出された中世の落ち込み状遺構の延長部分と考えられる。なお、第1次発掘調査で検出された鋤溝は、確認できなかった。

遺物は、包含層からの出土は極少量であったものの、落ち込み状遺構埋土の下層から中世の土器片が多く出土しており、第1次発掘調査成果と矛盾しない。

（金澤 舞）



1区全景（東から）

吉原遺跡の発掘調査

遺跡の時代：奈良時代～平安時代、中世以前、中世～近世
所在地：日高郡美浜町大字吉原 958-267 番地内
調査の原因：都市防災総合推進事業
調査期間：2016.08～2016.09
調査コード：16-25・010

はじめに

美浜町が計画した都市防災総合推進事業に伴う津波避難場所建設に伴い吉原遺跡の発掘調査を行った。当該遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地として弥生時代から平安時代にかけての散布地として知られている。既往の調査には、昭和 62 年度及び昭和 63 年度に財団法人和歌山県文化財センターが実施した県道柏・御坊線改良工事に伴う発掘調査があり、調査の結果、弥生時代中期前葉から古墳時代前期、奈良時代、平安時代などの土壌墓、弥生時代中期前葉から庄内期などの方形周溝墓が確認された。

今回の発掘調査は、既往の調査地の東南に位置し、面積 406 m²を対象に実施した。なお、発掘調査終了後、出土遺物（コンテナ（28ℓ）5 箱）等を対象として整理事業を実施し報告書を刊行した。整理事業の業務期間は 2016.12～2017.02 までである。

調査の成果

今回の発掘対象地は 4 箇所にわかれており、最も面積が広い 4 区から、1 区、2 区、3 区と順次発掘調査を実施した。

調査の結果、1 区から 4 区の各調査区において第 4 層上面で、奈良時代～平安時代とみられる土坑 9 基、



既往の調査と今回の調査位置図

中近世の火葬墓 24 基・土坑 1 基、時期不明のピット 3 基を確認した。また、4 区では第 4 層より約 1.0m 程度標高が低い第 7 層上面で、中世以前とみられる列石状遺構を 1 基確認した。

出土遺物は、土坑からは土師器や黒色土器、須恵器の細片が大量に出土し、火葬墓・土坑からは焼けた人骨や鉄釘、一部で土師皿、寛永通寶が出土した。ピットや列石状遺構から、遺物は出土していない。

まとめ

吉原遺跡は、これまで弥生時代から平安時代の墓域と考えられていたが、今回の発掘調査の成果により、中世から近世についても立地を海側へ移動させながら、引き続き墓域として利用されていたことが判明した。また、中世以降の墓が全て火葬墓である点は特筆される。当該地域が墓域として利用され、また火葬が行われた背景は定かではないが、文献史料等から、墓域選定には平安時代に造営された松原経塚が、火葬導入には仏教思想が一因として想定される。（金澤 舞）



4 区全景（西から）



4 区 列石状遺構（北から）

新宮城跡、新宮城下町遺跡の第1次発掘調査

遺跡の時代：縄文時代～江戸時代
所在地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
調査期間：2016.01～2016.07
調査コード：15-43・007、15-43・043

はじめに

国指定史跡である新宮城跡は、熊野川右岸に接する丘陵を取り込んで築かれた平山城である。新宮市が計画した文化複合施設建設により、新宮城跡西側が大規模に開発されるのに伴い、前年度から継続して発掘調査を実施した。遺構面は3面確認され、第1遺構面が江戸時代、第2遺構面が古墳時代～室町時代、第3遺構面が縄文時代となる。前年度中に第1遺構面を調査し、新宮城下町を構成する道路遺構や屋敷地境の石垣などを検出しており、今年度は第2遺構面と第3遺構面の一部を調査した。

調査の成果

第2遺構面では、古墳時代の土坑や鎌倉時代から室町時代にかけての半地下式倉庫・掘立柱建物・大型土坑・溝状遺構などを検出した。半地下式倉庫・掘立柱建物・大型土坑の配置には規則性を見出すことができ、掘立柱建物は調査区の南東部、半地下式倉庫は北東部、大型土坑は西側とおおまかに3ブロックに分けることが可能である。また、第1遺構面で検出している江戸時代の道路付近を境に遺構の内容が異なっていることも窺え、中世においても同じ位置に道路が存在していたと想定できる。このように解釈した場合、大型土坑

列と溝状遺構については区画に関わる遺構で、前者は中世前半期に大型の柵列として、後者は中世後半期に区画溝としての機能を持っていた可能性がある。道路は中世以前から存在する熊野速玉大社と阿須賀神社を繋ぐ道路と直交していることから、中世の町割りを踏襲して城下町が築かれたという評価も可能であろう。

1249半地下式倉庫（巻頭写真2）などのような遺構は、神奈川県鎌倉市の若宮大路周辺遺跡群を中心に確認され、石の上に根太を置いて柱を組む構造であることが分かっている。鎌倉市以外で発見されることが少なく、鎌倉幕府との繋がりを示す遺構と言える。

遺構の内容に加え、出土遺物に白磁・青磁などの高級磁器類があること、また、鏡や石塔などの遺物から、調査区付近には熊野別当に繋がる有力者の屋敷地や寺院などの存在も考えられる。一方、調査区が熊野川に近く、付近に湊の存在が想定できることから、半地下式倉庫などは湊に関連する施設で、掘立柱建物群については湊を管理する有力者の屋敷であった可能性も想定できる。このように考えた場合、山間部の物資を積み出す湊としての機能以外にも東西日本を結ぶ中継地・物流拠点とも考えられ、中世の海上交通を考えるうえで極めて重要な遺構の発見であると言える。

縄文時代の遺構としては、土坑を検出している。縄文土器は新宮市では速玉大社境内遺跡などで出土しているが、遺構は検出されておらず、市域で初めて確認した縄文時代の遺構と言える。今回調査した範囲は狭少であったが、縄文時代の生活面は、かなり広範囲に展開していることが予想でき、今後、住居跡等の発見が期待される。

（川崎 雅史）



第2遺構面（北から）



210 半地下式倉庫（東から）

新宮城下町遺跡の確認調査（１）支援

遺跡の時代：縄文時代～江戸時代
所 在 地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
調 査 期 間：2016.09～2016.11
調査コード：16-43・043-1

新宮市が計画している文化複合施設の建設に伴い、新宮市教育委員会が実施する新宮城下町遺跡の確認調査を円滑に行うための調査支援業務である。調査対象地は図書館棟の建設が予定されている箇所、調査区は7区画に分かれる。確認した遺構面は、江戸時代以降が2面と中世が3面である。

江戸時代の遺構には、石垣や集石遺構などがある。石垣は、熊野川に面する石垣で、城下町の北限を示すものと考えられ、外側に犬走り状の平坦部が存在する。

中世の遺構には、石垣・石段・鍛冶炉などがあり、概ね室町時代の遺構である。石垣や石段の状況から、南東から北西に下る旧地形にあわせて、階段状に敷地

が造成されていたことが窺える。遺物には多くの国産陶器や輸入陶磁器があるほか、坩堝や鉄滓などが出土しており、敷地内に鍛冶や鋳造を行う工房が存在した可能性がある。また、遺跡の立地や第1次発掘調査の成果から、湊の存在を窺うことができることから、調査区付近には船着き場などの遺構が存在した可能性がある。これらは中世の港湾都市の構造を窺う上で重要な遺構群の可能性が高い。（川崎 雅史）



中世の石垣と石段（北から）

新宮城下町遺跡の確認調査（２）支援

遺跡の時代：縄文時代～江戸時代
所 在 地：新宮市下本町
調査の原因：新宮市文化複合施設建設
調 査 期 間：2017.01～2017.06
調査コード：16-43・043-2

確認調査（１）支援業務と同様に新宮市教育委員会が実施する新宮城下町遺跡の確認調査を円滑に行うための調査支援業務である。調査対象地は主にホール棟の建設が予定されている箇所、調査区は①～⑩区の10区画に分かれる。次年度にかけて継続する事業である。

遺構面は基本的に3面を確認しているが、今回の確認調査では第2遺構面までを調査対象としている。第1遺構面では新宮城下町の道路遺構や屋敷地石垣、第2遺構面では鎌倉時代から室町時代の地下式倉庫や大型土坑・柱穴、古墳時代の土坑などを検出した。

道路遺構は、江戸時代の絵図から窺うと竹矢町通りと呼ばれていたもので、第1次調査で確認されている

河原町通りの1本西側の道路になる。江戸時代初期の竹矢町通りは幅3.0mで、屋敷地より一段低く掘割状に構築されていた。その後、近現代まで嵩上げをしながら連綿と機能していたことが明らかで、ある段階で東側に石組みの側溝が築かれるようになる。この道路遺構の検出によって、河原町通りとの間にあった屋敷地の規模が東西約44m、南北約35mであることが明らかになった。（川崎 雅史）



道路遺構：竹矢町通り（北から）

根来寺遺跡、山口古墳群の 第2次出土遺物等整理

遺跡の時代：中世～近世

所在地：和歌山市山口 岩出市根来

調査の原因：一般国道24号京奈和自動車道建設

調査期間：2016.08～2017.03

対象コード：11-11・016-1、12-11・016-2、
13-11・016-3、13-01・138

はじめに

当業務は、京奈和自動車道の建設に伴い平成23年度から同25年度にかけて発掘調査を実施した根来寺遺跡並びに山口古墳群の出土遺物等の整理を2年次にわたって実施し報告書を刊行した。

作業の概要

昨年度に実施した遺物及び遺構のトレース図を基にレイアウト作業を進め、これらの組版作業を行った。また、報告書の基本レイアウトを行った後、随時報告書本文の執筆作業を行った。こうした作業の後、遺物の再収納作業を行い、管理台帳を作成した。

・主要遺物の整理作業

遺物については、昨年度の段階で全ての実測とそのトレース作業は終わっており、今年度は、これらのトレース図を基に組版作業を実施した。組版に当たっては、土器類についてはスケール1/4を基本とし、備前焼の大甕などの大型製品については1/8、また五輪塔などの石造遺物については原則1/6で掲載することとし、包含層・遺構毎にレイアウトを行った。

・主要遺構の整理作業

遺構図については、全体図をはじめ大部分がデジタ



写真図版作成作業

ルトレースを行っている。ロットリングによる手書きトレースについては、遺構ごとに縮尺を決め、スケールを付すなどレイアウトを行って図版を作成した。

・主要遺物の整理作業

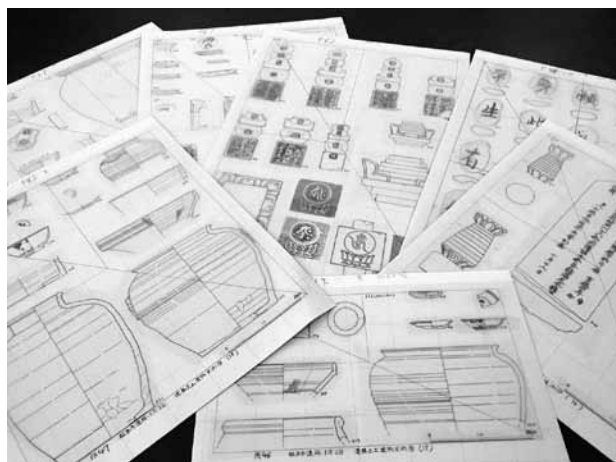
昨年度に実施した石造遺物以外の土器類について写真撮影を行った。その後、石造遺物も含めて包含層・遺構ごとに分類し、図版の作成を行った。

・報告書本文の執筆作業

報告書本文のうち、調査の経緯と経過・地理的環境などについては、昨年度執筆済みであり、本年度は、各遺構の詳細説明や遺物の記述などを中心に執筆を行った。また、執筆に伴い新たな図表などが必要になったことからこれらの掲載資料の作成を併せて行った。

・遺物移管に伴う再収納作業

遺物については、報告書刊行後の和歌山県教育委員会への移管に向けて再収納作業を行った。将来的な照会を考慮し報告書掲載遺物とその他のものに大別し、遺物台帳を作成した。（村田 弘）



遺物図版



遺構図版

平井遺跡、平井Ⅱ遺跡の第2次 出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代・古墳時代・奈良時代・鎌倉時代
所在地：和歌山市平井
調査の原因：第二阪和国道建設
整理期間：2016.04～2017.03
対象コード：12-01・437、12-01・437-2、13-01・437、
13-01・437-2、13-01・399、13-01・399-2、
14-01・399、14-01・399-2

はじめに

調査で出土した遺物は、調査報告書作成に伴い注記・接合・遺物充填材による復元・実測・写真撮影の一連の整理作業を経て、遺構図面と共にトレース作業を行い、組版を作成した。写真については、報告書用の写真図版組版を作成した。

出土遺物等の整理作業

平井遺跡、平井Ⅱ遺跡から出土した遺物には、主体となる各時代の土器、古墳時代の埴輪類の他に、石器・金属器・木器・動物遺存体等がある。出土遺物（土器・

埴輪）は、第1次整理業務に引き続き、注記作業・接合作業を行った。

基礎的な作業を経た主要遺物を対象に、遺物充填材による復元、遺物実測、トレース図面原稿を作成した後に印刷原稿としての組版を作成した。現地調査の遺構図面については、トレース作業を行い、印刷原稿としての組版を作成した。

整理の成果

複数次にわたる調査により得られた遺構・遺物の様相は、弥生時代中期から古墳時代・奈良時代・鎌倉時代・江戸時代へと、断続的に続く内容である。これらの中でも、特に弥生時代中期の竪穴建物と方形周溝墓、古墳時代中期の陶質土器（初期須恵器）、古墳時代中～後期の埴輪窯と埴輪、古墳時代終末期の古墳、奈良時代の掘立柱建物群と遺物包含層から出土した様々な遺物群は目を見張るものがある。

特に今次の整理作業では、平井遺跡第1次調査で検出した2基の埴輪窯とそこから出土した埴輪の位置付けが可能となった。（土井 孝之）

佐野廃寺の出土遺物整理支援

遺跡の名称：佐野廃寺
所在地：伊都郡かつらぎ町佐野
調査の原因：史跡整備
支援期間：2017.01～2017.03

かつらぎ町教育委員会が実施する整理業務の支援を行った。

対象としたのは佐野廃寺確認調査で出土した遺物であり、今年度は、コンテナ25箱を対象として接合作業を実施した後、補強・復元作業を行った。また、これらの中から報告書掲載予定の遺物について実測作業及び採拓作業を実施した。土器類は、比較的時期を同定することが容易な口縁部を抽出して実測した。

瓦類については、丸瓦・平瓦とも瓦当文様のわかるものを選定するとともに、タタキの痕跡など調整技法が看取でき、かつ特徴的なものを選び実測した。その

後これらの実測図を元にトレース作業や採拓作業を実施した。なお、実測点数は、土器22点、瓦類105点で、拓本の枚数は158枚である。その後、トレースした実測図を元に7枚の遺物図版を作成した。また、この遺物図版に掲載した90点については、写真撮影を行い、遺物の写真図版を作成した。（村田 弘）



遺物図版作成作業

重要文化財 広八幡神社本殿ほか 5 棟の保存修理

建築年代：本殿、摂社若宮社本殿、摂社高良社本殿
楼門（室町時代）
摂社天神社本殿、拝殿（江戸時代）
所在地：有田郡広川町上中野
修理の種類：屋根葺替、塗装工事、部分修理、耐震診断
修理期間：2014.11～2016.09

平成 26 年度から 3 か年事業として実施してきた事業の最終年度である本年度においては、拝殿のこけら屋根葺替及び塗装工事を進め、完了した。あわせて平成 26 年度に実施した耐震診断の成果に基づき、拝殿床下に補強材を組み入れ、将来の地震災害に備えた。

また今回の修理事業に伴い、破損の進捗が確認された本殿亀腹の漆喰塗と楼門土間の修理、また各社殿周辺の排水確保を主眼とした地盤整備工事を文化庁の計画変更承認を得たうえで追加して実施した。

神社ではおよそ 35 年ぶりとなる大規模な文化財修理となり、重要文化財に指定されたすべての建物の屋根や塗装の修理を実施するとともに、県指定文化財である舞殿の屋根工事、また自動火災報知設備の修理のほか、神社の自費事業として瑞垣や社務所などの改修も行われ、歴史的建造物を末永く保全していく環境が整えられた。

（多井 忠嗣）



拝殿床下の補強材設置状況

重要文化財 宝来山神社本殿の保存修理、 県指定文化財 宝来山神社末社東殿・西殿 の保存修理

建築年代：本殿（4 棟）慶長 19 年（1614）、
末社（2 棟）江戸時代前期
所在地：伊都郡かつらぎ町萩原
事業の種類：屋根葺替・塗装修理
事業期間：2015.06～2016.09

重要文化財に指定された第二殿、第四殿及び県指定文化財末社西殿の檜皮屋根の葺替、塗装工事を実施し、並列する 6 棟の社殿すべての修理が完了した。

各建物は前回の文化財修理以降も神社関係者による適切な維持管理が行われ、棟飾りなどを除く木部の状況は良好であった。ただし神域背面に県史跡である文覚井が流れ、社殿周辺の地盤が常に湿気た状況にあり建物の維持に悪影響を与えていたことから、文化庁の計画変更承認を得て、雨落ち部分の整備や排水経路の堆積土の鋤取りを実施するとともに、変色が発生した塗装部分においては、顔料や膠着材の配合などを調整し状況の改善を図った。

神社では施工中や竣工時に現場見学会や地元小学生の特別授業が積極的に開催され、地元住民の理解を深めるとともに、歴史的建造物を受け継いでいく次世代の育成にも尽力された。

（多井 忠嗣）



檜皮工事状況（第二殿から西殿を見通した写真）

重要文化財 安楽寺多宝小塔の保存修理

建築年代：室町時代前期
所在地：有田郡有田川町二川
修理の種類：半解体修理
修理期間：2015.11～2017.03

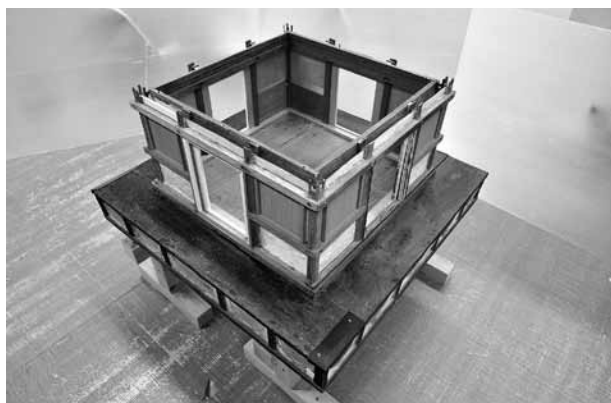
安楽寺多宝小塔保存修理事業は平成26年11月より工事期間12ヶ月、事業期間15ヶ月の予定で着手した。二重組物や軒廻りを中心とした半解体修理を行い、現状修理とする予定であった。しかしその後、解体に伴う調査により、建立当初の姿や以降の改変過程が明らかとなった。これを踏まえて所有者、文化庁、関係各位と協議をもち、復原を行うことで建物本来の価値をより高めることができると判断して現状変更を実施した。要旨は、①一重側背面中央間の横板壁を幣軸構両開棧唐戸に復する、②一重四面両脇間腰長押上の横板壁を連子窓に復する、③一重内部の四周に寄せを復する、の3点である。

①については、現状正面中央間と同様の扉構えが、かつては他の三面にも存在したことが、痕跡により明らかとなった。棧唐戸自体は後世の取替材であったが、一重頭貫木鼻が大仏様であることなどから、当初の形式を踏襲していると判断し、形状はこれに倣った。

②に関しては、連子窓の部材は残存していなかったが、内法長押下端の痕跡や柱の板溝の状況、多宝塔の類例など、複数の要因から四周に額縁を廻した連子窓であることが判明した。額縁の面取り形状や連子の割り付けは判明しなかったが、類例や実際のサイズなどを総合的に検討して復原案を作成した。



二重組物組立状況



一重軸部組立状況

③は一重内部の床板と柱側面に痕跡があり存在が明らかであった。

その他、二重小屋組内部に転用されていた当初二重飛檐隅木の痕跡から、風鐸が存在したことが判ったが、大きさや形状など不明な点が多く、今回の復原は見送られた。

建立当初の塗装と目されていた塗装痕跡の成分分析を行った（龍谷大学の北野信彦教授による）結果、中世建造物での使用例が2件目の発見となる、非常に稀少な「パイプ状ベンガラ」であることが判明した。これらの塗装を保持するため、塗装の塗り替えや復原は行わず、剥落止めのみとしている。

また、一重床板と基壇天板について年輪年代調査を実施（奈良文化財研究所客員研究員の光谷拓実氏による）した結果、建立時期を補完する結果を得られた。

工事完了後、県立博物館にて県内初となる重要文化財建造物の展示が行われた。現状変更に伴う計画変更により工期、事業期間共に2ヶ月延長し、平成29年3月末に全ての事業が完了した。（結城 啓司）



一重瓦棒補足材仮組状況

重要文化財 旧西村家住宅主屋ほか 二棟の保存修理

建築年代：主屋（大正3年～4年）
南外塀、北外塀（大正後期）
所在地：新宮市新宮地内
修理の種類：半解体修理、部分修理
修理期間：2016.04～2018.12

新宮市では、修理に先立ち平成24～25年度に建物の保存活用計画を策定し、同26年度からは耐震診断事業をおこなってきた。平成28年4月より平成31年3月までの予定で、主屋、南外塀、北外塀の保存修理事業を行うこととなり、当センターでは昨年度の基本設計に続いて、設計監理業務を受託した。

旧西村家住宅は大正3年～4年にかけて建てられた3度目の自邸である。昭和初期に一家が東京に移住した後は借家となり、同39年からは西村記念館として保存された。同53年に一般公開を開始し、平成10年からは建物の寄贈を受けた新宮市が管理をおこない、現在に至る。

建築当時、新たに興った住宅改良の動きの中で、家族本位の思潮に基づいて計画された郊外型住宅の初期の建物としての高い歴史的価値がみとめられて、平成22年6月に国の重要文化財に指定された。

近年、主屋北東の地下室周辺や食堂東側で地盤面の不同沈下が生じ、軸部の変形や壁面、屋根面などの各所で破損がみられ、雨漏りによる腐朽や蟻害も確認された。そこで今回、地盤と軸部の強化を図りながら、建物の破損箇所を補修する計画の修理工事をおこなうことになった。

修理事業は仮設工事から取り掛かり、8月より素屋



主屋を南東からみる（修理前）

根を建設した。分解工事では、屋根葺材、壁土、軸組、建具等を分解した。その際に、経年で破損していた箇所と分解によって現れた部分を利用し、過去の外壁の塗り替え補修の存在や室内の壁と木部等の補修経過を確認した。これらで得た知見と古写真等の資料をもとに建物の変遷について理解を深め、修理事業に反映させていく。基礎工事は、建物北東の地下室部分と食堂東側の張出部分において地盤面を掘削し、石積み基礎の部分分解をおこなった。適正な位置を設定し、ベタ基礎の打設と基礎石の積み直しを平成29年度にかけておこなう。

来年度は、主に木工事における軸部不陸修正、木部補修等を進めていく。（大給 友樹）



地下室北東の基礎工事状況



主屋北東部分の分解状況

重要文化財 琴ノ浦温山荘茶室の 美装化事業

建 築 年 代：茶室（大正時代）
所 在 地：海南市船尾
修理の種類：部分修理（美装化事業）
修 理 期 間：2016.06～2016.09

文化庁で本年度より新たに設置された補助制度、美しい日本探訪のための重要文化財建造物活用事業（重要文化財建造物の美装化事業）を県内で初めて活用し、台風などの影響で劣化していた茶室外周の建具や左官壁の補修を行った。

従来の補助制度では、屋根や建物全体の破損など建物本体を維持していく上で不可欠な工事が優先されて採択されてきたが、塗装の塗り替えや建具の補修など比較的軽微な修理を簡便な手続きで迅速に実施することで、美観の維持をおこなうことを意図するものである。

温山荘園は国の名勝に指定されており、池のほとりに建てられた茶室は、庭園を構成する重要な要素となっている。建物外周板戸は柱目の無垢板が贅沢に使用され、茶室の外観を印象付ける重要な建具であるが、雨の当たる下半部分の風化や敷居の摩耗、台風時に落下したことによる枠の不具合が顕著であったため、一旦分解したうえでオリジナルの仕様に倣って埋木修理や新材の補足を行った。（多井 忠嗣）



建具修理の様子

県指定文化財 総持寺総門・鐘楼の 保存修理

建 築 年 代：総門 宝暦 11 年（1761）
鐘楼 寛永 15 年（1638）
所 在 地：和歌山市梶取
修理の種類：総門 半解体修理 鐘楼 解体修理
修 理 期 間：2015.02～2017.01

平成 26 年度から実施している事業の最終年度にあたる本年度は、鐘楼の部材修理、組み立てを実施し、すべての工事を完了した。

鐘楼は今回発見された棟札から寛永 15 年（1638）の建立であることが判明し、今回の修理に伴い実施した年輪年代調査においても、虹梁に用いられた杓材が 1635 年の伐採材であることが確認された。

また、茅負材の墨書から元禄 9 年（1696）に大規模な改修を受けていることも確認された。寺に残る記録からは同時期に境内の拡張に伴い、鐘楼が曳家されたことも判明し、鐘楼の沿革に関する多くの資料を得ることができた。

鐘楼の傾斜の原因は、礎石の沈下のほか中古修理時に柱の貫穴が切り広げられたことに起因すると考えられた。このため今回は基礎を補強するとともに柱と貫の取り付け部を十分に補修し、大型クレーンを用いて貫穴を破損することなく丁寧に組み立てた。

（多井 忠嗣）



軸部組立状況

県指定文化財 高原熊野神社本殿の保存修理

建築年代：室町後期
所在地：田辺市中辺路町高原
修理の種類：屋根葺替 部分修理
修理期間：2016.02～2016.09

高原熊野神社は、田辺市中辺路町高原にある熊野参詣道沿いの神社である。境内は、国史跡「熊野参詣道」の一部として、また国名勝「南方曼陀羅の風景地」のひとつとして指定されている。南方熊楠ゆかりの境内には、巨大なクスノキをはじめとするウラジロガシ・カゴノキ等の大木が叢生し、室町時代の様式を残す本殿とともに霊地としての風景を伝えている。

草創・沿革の詳しいことはわからないが、御正体(みしょうたい)裏面の墨書に応永10年(1403)に熊野本宮大社から若王子を勧進したとある。

本殿は中規模の一間社春日造、檜皮葺の社殿である。本殿は造営棟札から天文13年(1544)の建築、宮殿は本殿より遡る御正体墨書の応永10年の製作と考えられている。室町時代の形式を残している熊野参詣道沿い最古の建物で貴重であると昭和36年4月18日に県指定文化財となった。

本殿は平成8・9年に屋根葺替・塗装工事が行われたが、屋根の檜皮が腐蝕し、棟の千木・勝男木も腐朽して取替が必要であった。塗装や彩色は全面的な修理の必要はないが、彩色に若干の剥落が見られ、剥落止めと補筆が必要であった。県の補助事業として保存修理を平成28年2月に着手、9月に工事が完成した。

工事は仮設の素屋根を掛けて檜皮の解体を行い、解



屋根工事完了

体後、小屋組内部の調査を行った後、野地を整えて檜皮葺を行った。檜皮葺が終わった後、彩色の剥落止めと補筆を行い、すべての作業が終わってから仮設を解体した。しかし、長引く秋雨と高い気温により、剥落止め作業に使用した膠にカビが生え、特に白色の胡粉に生えた黒カビは特に目立つため、古色付けの要領で薄く溶いた胡粉を上にかけて修正した。

解体に伴う調査の結果、修復のため小屋組は桁から上をすべて取り替え、化粧垂木・化粧野地板も正面東隅を除いて新しくしたことがわかった。小屋組には昭和32年の墨書があり、「昭和26年のジェーン台風による被災の後、氏子が苦勞の末、社殿を復旧した。」という本殿内に残された修復棟札の記録が建物からも証明された。そしてこの社殿は地元の人々によって今後も末永く伝えられていくと信じている。

(寺本 就一)



補筆完了、黒カビ補修とともに鶴の絵も修復



昭和32年に修復された小屋組

国史跡 熊野参詣道史跡等保存整備 ～継桜王子跡社殿の保存修理～

建築年代：江戸後期
所在地：田辺市中辺路町野中
修理の種類：塗装修理
修理期間：2016.07～2017.01

継桜王子は、熊野参詣道「中辺路」の道中、野中地区に位置し、平安時代よりその名が確認される王子である。王子周辺は、県指定天然記念物「野中の一方杉」があり、「南方曼陀羅の風景地」として国の名勝地にもなっている。「秀衡桜」や「野中の清水」などの名所もあって、現在も参詣者の中継地点である。平成12年（2000）に「継桜王子跡」として国史跡「熊野参詣道」の一部に指定され、同16年にはユネスコの世界遺産に登録されている。

王子跡に建つ社殿は、一間社春日造、銅板葺の建物である。軸組の破損が進んで全体が傾斜していたため、国庫補助事業として平成26年度より保存修理工事を進めて来た。26年度には木工事を中心とした補修を行い、本年度は塗装工事として塗装の塗り替えと彩色の描き直しを行った。

塗装工事は、平成26年度に木工事に続いて単色塗装の塗り直しを実施する計画であったが、修理中に行った彩色部分の調査で、江戸末～明治頃と考えられる時期の彩色の全体像が概ね再現できることがわかった。それを受けて、修理方針を変更して木工事と塗装工事を分割し、本年度に彩色の追加調査と描き直し作業を加えた塗装工事を実施したものである。

保存修理工事を終えた社殿には、今回の事業で修理方針変更の要因ともなった、桜図が再現された。この西面の桜のほかには、東面に梅、北面に竹が描かれる。繋ぎ虹梁という部材にも「松・竹・梅」がまとめて描かれているのに、さらに「桜・竹・梅」と並べられた板壁の絵。王子の名のとおり、とでもいうべきなのか、この建物に関わって来られた方々の思いを、事業を通して垣間見られた様な気がしている。

（下津 健太朗）



板壁彩色の再現状況

上から順に、西面の桜図、北面の竹図、東面の梅図。



社殿を南東より見る。

繋ぎ虹梁（丸い柱と四角い柱の間に渡された横材）には「松・竹・梅」がコンパクトに描かれている。

県指定（史跡） 切部王子跡保存修理 ～本殿及び拝殿の保存修理～

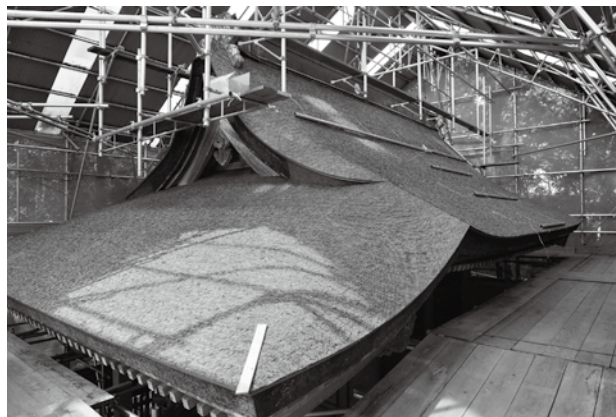
建築年代：本殿：文政 11 年 (1828)
拝殿：江戸末期

所在地：日高郡印南町西ノ地
修理の種類：屋根葺替、部分修理
修理期間：2016.11～2017.05

切部王子は熊野九十九王子のうち五体王子のひとつに数えられていた。もとの社地は現社地の東隣の丘上にあつたが、天正年間の兵火により焼失し、その後江戸時代に現社地で再建された。現在の境内地は昭和 34 年に県の史跡に指定され、社前にあるホルトノキは幹周り 4 m、高さ 16 m におよぶ県下最大級のもので、県の天然記念物に指定されている。

現在の本殿は大規模な春日造で正面を一間、側面を二間とし、棟札により文政 11 年 (1828) に建てられたことが明らかで、彫刻・絵様なども時代相応である。内部に納められた宮殿は、正面入母屋造背面切妻造の本格的なものである。木鼻や実肘木の絵様は古式で 17 世紀まで遡ると考えられる。

前回の屋根葺き替えは昭和 54 年に行われ、葺き替え後 35 年以上経過し破損が著しくなり、木部にも蟻害による破損が見られたため、県の補助事業として保存修理を実施することとなった。平成 28 年 11 月に事業着手、平成 29 年 1 月から工事を始めた。工事に先立ち本殿内の宮殿を移したとき軒廻りの破損が大きいことが判明し、また拝殿正面の砂岩切石礎石の風化が著しく早急に修理が必要ながわかった。このた



屋根工事完了、次年度に千木・勝男木等を取り付ける

め、県から計画変更の承認を受けて、追加工事として宮殿軒廻りの修理と拝殿礎石の取り替えを実施した。

旧檜皮の解体工事中に、野地板が和釘で留められていることが判明し、野地板を解体せずに存置することとし、その上に野小舞を打ち付け凹凸をならして平葺きを行った。解体後の小屋組内の調査で墨書から大正 2 年に野地板を補修していることがわかった。宮殿は屋根板を取り外して内部から垂木と化粧野地板の補修を実施したが、墨書等の資料は発見されなかった。

屋根工事・木工事後、拝殿の礎石取り替えにかかった。砂岩の礎石は潮風の影響により厚さが半分近くまで風化していた。近年、砂岩の需要がないため県内では入手できず、徳島県で碎石を生産している採掘現場から特別に切り出してもらった。

次年度に箱棟に千木・勝男木を取り付け、素屋根を解体してすべての工事が完了し、五体王子にふさわしい社殿が甦る。
(寺本 就一)



宮殿軒廻りの修理完了状況



拝殿の礎石取り替えに伴う揚屋工事

国登録文化財 みそや別館の保存修理

建築年代 : 主屋 明治 17 年 (1884)
上蔵及び離座敷 明治中期
下蔵 文化 5(1808)
所在地: 橋本市橋本
修理の種類: 屋根葺替・部分修理
修理期間: 2014.11 ~ 2017.2

橋本市の市街地再開発事業に伴い、昨年度仮曳家した主屋、上蔵(上座敷)、下蔵の各建物は、造成工事が完了した敷地に再度曳家し、破損部分の修理を実施した。

主屋においては通りに面した正面ファサード部分の開口部がシャッターに取り換えられ、内部土間部分も繰り返し改変されていたが、多数の古材が発見されたため、文化庁と協議したうえで復原整備した。

ファサード部分は出格子や床几などほぼ建立当初の姿に復原することができたが、活用上の利便性も考慮し揚戸部分には引き違いの建具を整備した。またミセ部分では古材の再用を優先し、ミセが撤去され古材が保管されたと考えられる大正期の姿にあわせ整備した。

橋本市においては、大規模な再開発により近世に遡る貴重な多くの町屋が失われたが、当建物は所有者の強い保存の意志により、本来の価値を損ねることなく屋敷構え全体を後世に伝えることができた。

(多井 忠嗣)



竣工

重要文化財濱口家住宅と登録文化財旧戸田家住宅の保存活用計画策定

濱口家住宅主屋ほか
建築年代: 江戸時代~明治 42 年頃
所在地: 有田郡広川町広

旧戸田家住宅主屋ほか 5 棟
建築年代: 大正後期~昭和 8 年 (1933)
所在地: 有田郡広川町広

広川町は「稲むらの火」の伝承と復興の歴史が残る伝統的な街並みを保全・活用して、町の魅力の向上を図る街づくりの基本計画の策定を建設コンサルタント会社に発注した。その中で、街並みの代表的な構成要素である濱口家住宅・旧戸田家住宅の保存活用計画を担当することとなった。

濱口家は、通称「東濱口家」と呼ばれており、江戸時代中期に広から銚子に渡り醤油醸造業を始めた地元を代表する商家である。宝永 4 年 (1707) の津波後の再建と伝えられる主屋から明治 42 年頃建築の御風楼まで江戸時代から明治時代にかけての建物が建ち並び、その西側には「東園十二勝」と呼ばれる庭園が広がる。

戸田家は、江戸時代から製網業を営み、網元としても活躍した旧家のひとつであった。大正後期に主屋が建てられ、その北側に網工場などが建ち、網工場の東に大座敷などが昭和 8 年 (1933) までに建てられた。現在広川町の所有となり、公開や活用を計画している。

この保存活用計画は、広川町の街づくりのみならず、それぞれの建物の公開や活用及び保存修理に役立つものであると確信している。

(寺本 就一)



濱口家住宅『御風楼』

和歌山県内出土埴輪の蛍光X線分析

はじめに

和歌山県内には多数の古墳が分布し、そこからは埴輪が多数出土している。これらの埴輪については、考古学からの型式学的研究と、地球化学的な胎土分析の双方から、埴輪の生産・供給問題の研究を推進することができる。

今回は紀ノ川流域に点在する古墳から出土した多数の埴輪を蛍光X線分析した結果について、平井遺跡出土埴輪の分析結果と比較しつつ報告する。

なお、紀ノ川流域所在の古墳出土埴輪試料のサンプリングは、和歌山県教育委員会および和歌山市教育委員会の協力を得て（公財）和歌山県文化財センターで実施し、試料の分析は大阪大谷大学に設置されている理学電機製 RIX2100（波長分散型）の完全自動式蛍光X線分析装置を使って、三辻が測定した。

分析結果

分析値一覧表（1）～（8）に、分析データをまとめた。すべての分析値は同じ日に測定した岩石標準試料 JG-1 の各元素の蛍光X線強度で標準化した値で示されている。分析データは K-Ca、Rb-Sr の両分布図と K-Rb、Ca-Sr の両相関図上での分布位置を比較して定性的に解析した。これらの分布図上で定性的にデータ解析することは胎土分析のデータ解析の第一歩である。

初めに、平井遺跡出土埴輪の K-Ca、Rb-Sr 両分布図を図 1 に示す。両分布図における分析試料の分布は窯跡としては相当大きくばらついている。何らかの原因があると思われるが、今後の問題として残しておく。

ここでは紀ノ川流域に分布する古墳出土埴輪の試料群の分布をまず整理することが必要なので、ほとんどの試料を包含するようにして「平井領域」を描き、古墳出土埴輪の胎土と比較する上での対照領域とした。この手法は胎土分析のデータ解析の第一歩でもある。両分布図における試料群の分布をみると、大きくばらつくものの、大部分の試料は一定の分布領域に集中して分布していることがわかる。この領域を平井遺跡「A

群領域」とし、図 2 に示す。これが平井遺跡で検出された埴輪窯（平井窯跡）で焼成された埴輪胎土の主体であると考えられる。

次に、紀ノ川流域の古墳出土埴輪の胎土分析の結果を示す。分析試料を採取したのは、岩橋千塚古墳群内の前山 A58 号墳、大日山 35 号墳、大谷山 22 号墳、花山 6 号墳、花山 45 号墳のほか、大谷古墳、平井 1 号墳を含む 7 基である。

図 3 には、平井 1 号墳出土埴輪の両分布図を示す。ほとんどの試料は「平井領域」内でも偏って分布するものの、「平井領域」に分布することがわかる。平井窯跡で焼成された可能性が十分あることがわかる。ただ平井遺跡「A 群領域」には対応しないので、平井窯跡で焼成された埴輪であるとしても、平井窯跡出土埴輪の主力胎土ではない。

図 4 には、前山 A58 号墳出土埴輪の両分布図を示す。ほとんどの試料は「平井領域」内にまとまって分布し、平井窯跡で焼成された可能性が十分あることがわかる。図 3 と比較すると、前山 A58 号墳出土埴輪の両分布図における分布位置は平井 1 号墳出土埴輪の分布位置と類似することが注目される。前山 A58 号墳出土埴輪の胎土も平井窯跡出土埴輪の主力胎土ではない。このことから、これらの古墳出土埴輪は平井窯跡で焼成された埴輪ではない可能性もある。

図 5 には、花山 45 号墳出土埴輪の両分布図を示す。試料群は「平井領域」内でも狭い領域に集中して分布していることが注目される。ほとんど同じ場所で同時に採取された粘土が埴輪の素材となっていることを示している。花山 45 号墳出土埴輪の胎土も平井遺跡「A 群領域」には対応せず、平井窯跡で焼成された埴輪ではない可能性もある。

図 6 には、大谷古墳出土埴輪の両分布図を示す。K-Ca 分布図では多くの試料は「平井領域」からずれて分布するが、Rb-Sr 分布図では「平井領域」の左側の領域に偏って分布し、平井 1 号墳や前山 A58 号墳の埴輪の胎土とも少し異なることを示している。同じ地域内の少し離れた場所で採取された粘土が埴輪の素材となっていると考えられる。大谷古墳周辺で作られた埴輪である可能性もある。

図 7 には、大谷山 22 号墳出土埴輪の両分布図を示

す。この図で注目されるのは、K-Ca 分布図で試料集団が明らかに 2 群に分かれることである。多くの試料は「平井領域」に分布するが、少数の試料は後述する「花山領域」に対応することを示している。

図 8 には、大日山 35 号墳出土埴輪の両分布図を示す。ここでも、大部分の埴輪は「平井領域」に分布するが、一部の埴輪は後述する「花山領域」に含まれる埴輪であることを示している。「平井領域」に分布する大部分の試料の分布位置も平井遺跡「A 群領域」とは少しずれており、平井窯跡で焼成された埴輪ではない可能性もある。大日山 35 号墳の周辺で作られた可能性も考えられる。

図 9 には、花山 6 号墳出土埴輪の両分布図を示す。K-Ca 分布図では「平井領域」に分布する試料はなく、平井窯跡から供給された埴輪は含まれていないことを示す。両分布図でこれらの試料を包含するように「花山領域」を描き、両分布図上で定性的に比較する上で対照領域とした。

ここで、注目されるのは Ca 量が少ない 5 点の試料である。これら 5 点の埴輪の胎土は花山 6 号墳のほとんどの埴輪の胎土とは全く異なる胎土であることを示している。「平井領域」にも対応しない、これら 5 点の埴輪は外部地域から搬入された埴輪であると考えられる。その産地は、今後の問題である。

ここで、花山 6 号墳出土埴輪の胎土の素材となった粘土の母岩に関する情報を得るため、Ca-Sr 相関図を描いた。花崗岩、花崗閃緑岩、玄武岩は、Ca-Sr 相関図でも分布の仕方が全く異なる。したがって、これらの岩石に由来する粘土も、Ca-Sr 相関図において、それぞれ分布の仕方が全く異なる。

花山 6 号墳、大谷山 22 号墳、大日山 35 号墳から出土した埴輪のうち、「花山領域」に含まれる埴輪の Ca-Sr 相関図を図 10 に示す。すべての試料は勾配 (1:1) の直線の上側の領域に分布する。この領域に分布する土器の素材は花崗閃緑岩か玄武岩系の岩石に由来する粘土である。花山 6 号墳、大谷山 22 号墳、大日山 35 号墳出土埴輪のうち、「花山領域」に含まれる埴輪も同じ領域に分布し、これらも同じ系統の岩石に由来する粘土が素材となったことを示す。ただ、よくみると、これらの埴輪の分布位置は微妙にずれており、同じ「花

山領域」の粘土を素材とした埴輪であるが、その中でもやや異なる場所で採取された粘土が素材となっていると考えられる。さらに、平井遺跡でも「花山領域」の埴輪が 8 点出土しており、それらも図 10 にプロットしている。明らかに、「花山領域」の粘土を素材とする埴輪であることを示す。

さらに注目されるのは、花山 6 号墳から出土した、外部地域からの搬入品と推定される 5 点の埴輪である。図 10 をみると、勾配 (1:3) の直線沿いに分布し、「花山領域」の粘土とは異なる岩石に由来する粘土を素材とした埴輪であることを示す。勾配 (1:3) の直線沿いに分布するのは、花崗岩系の岩石に由来する粘土の化学特性であり、上町台地の地質の土台を構成する花崗岩に由来する粘土を素材とした埴輪である可能性もある。今後、検討が必要である。

まとめ

以上の結果から、紀ノ川流域に分布する古墳出土埴輪の胎土は少なくとも 3 種類に分けられることが明らかになった。1) 平井遺跡の埴輪胎土と類似した胎土（「平井領域」）、2) 花山 6 号墳出土埴輪の主力胎土と類似した胎土（「花山領域」）¹⁾、3) 上町台地等で作られた埴輪に類似した胎土の 3 種類である。

今後、紀ノ川流域に分布する古墳出土埴輪の元素分析のデータを大量に集積することによって、この地域の埴輪の生産・供給問題の研究を推進することができると考えられる。その結果は和歌山地域の古墳時代史を再現する上で役立つことであろう。今後の進展が期待される。

（三辻利一・犬木 努（大阪大谷大学））

注

- 1) 分析値一覧表に示されているように、「花山領域」に含まれる埴輪の大半が「IV 群系」である点には注意が必要である。

参考文献

三辻利一・犬木 努 2017 「付章第 1 節 平井遺跡出土埴輪の蛍光 X 線分析」『平井遺跡、平井 II 遺跡—第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書—』（公財）和歌山県文化財センター

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（1）

三辻研No.	古墳名	試料 No.	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-362	花山 45 号墳	1	0.374	0.421	2.92	0.305	0.529	0.201	円筒	突帯		方区 S7
28-363	花山 45 号墳	2	0.352	0.434	2.89	0.307	0.559	0.199	円筒	底部		方区 S8
28-364	花山 45 号墳	3	0.409	0.445	2.77	0.410	0.574	0.195	円筒	底部		方区 S10 176
28-365	花山 45 号墳	4	0.407	0.425	2.78	0.453	0.563	0.207	円筒	底部		方区 S10 176
28-366	花山 45 号墳	5	0.350	0.462	3.10	0.282	0.547	0.164	円筒	突帯		方区 S11
28-367	花山 45 号墳	6	0.409	0.443	3.04	0.361	0.511	0.211	円筒	底部		方区 S11
28-368	花山 45 号墳	7	0.393	0.462	2.98	0.318	0.567	0.205	円筒	底部		方区 S13
28-369	花山 45 号墳	8	0.373	0.465	2.96	0.398	0.533	0.267	円筒	突帯		方区 S15
28-370	花山 45 号墳	9	0.419	0.443	3.10	0.328	0.543	0.195	円筒	突帯		方区 S15
28-371	花山 45 号墳	10	0.392	0.461	2.88	0.387	0.585	0.218	円筒	底部		方区 S15
28-372	花山 45 号墳	11	0.413	0.456	2.87	0.397	0.594	0.209	円筒	突帯		方区 S23
28-373	花山 45 号墳	12	0.416	0.452	2.74	0.410	0.579	0.226	円筒	突帯		方区 S23
28-374	花山 45 号墳	13	0.415	0.458	2.86	0.414	0.558	0.214	円筒	突帯		方区 S23
28-375	花山 45 号墳	14	0.377	0.424	3.19	0.323	0.486	0.192	円筒	突帯		方区 SD
28-376	花山 45 号墳	15	0.414	0.458	2.98	0.372	0.537	0.225	円筒	底部		方区 SD
28-377	前山 A58 号墳	1	0.307	0.536	2.76	0.330	0.495	0.259	馬	装飾	図 60-109	
28-378	前山 A58 号墳	2	0.423	0.435	2.96	0.475	0.474	0.209	人物		図 60-115	
28-379	前山 A58 号墳	3	0.380	0.445	2.93	0.458	0.521	0.238	人物	胴部	図 60-117	
28-380	前山 A58 号墳	4	0.324	0.476	3.32	0.389	0.444	0.195	人物	顔～肩部	図 61-121	
28-381	前山 A58 号墳	5	0.314	0.430	2.47	0.362	0.513	0.212	人物		図 61-124	
28-382	前山 A58 号墳	6	0.407	0.539	2.68	0.411	0.498	0.220	人物		図 62-134	
28-383	前山 A58 号墳	7	0.356	0.452	3.22	0.418	0.372	0.210	人物		図 62-137	
28-384	前山 A58 号墳	8	0.378	0.455	3.42	0.451	0.468	0.197	人物		図 62-140	
28-385	前山 A58 号墳	9	0.333	0.352	2.25	0.407	0.465	0.212	人物		図 63-142	
28-386	前山 A58 号墳	10	0.391	0.513	3.18	0.480	0.477	0.190	人物	基部	図 63-149	
28-387	前山 A58 号墳	11	0.380	0.561	2.59	0.415	0.511	0.248	人物	基部	図 63-150	
28-388	前山 A58 号墳	12	0.462	0.459	2.41	0.575	0.450	0.403	石見型		図 67-153	
28-389	前山 A58 号墳	13	0.311	0.594	3.36	0.326	0.479	0.214	石見型		図 68・69- 154	
28-390	前山 A58 号墳	14	0.387	0.543	2.65	0.470	0.514	0.226	石見型		図 70-155	

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（2）

三辻研№	古墳名	試料 №	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-391	前山 A58 号墳	15	0.337	0.356	3.58	0.308	0.406	0.233	石見型		図 70-156	
28-392	前山 A58 号墳	16	0.406	0.395	2.62	0.486	0.433	0.363	石見型		図 70-157	
28-393	前山 A58 号墳	17	0.375	0.568	2.63	0.365	0.493	0.265	石見型		図 70-162	
28-394	前山 A58 号墳	18	0.397	0.380	3.12	0.418	0.434	0.290	石見型		図 71-163	
28-395	前山 A58 号墳	19	0.393	0.379	3.32	0.442	0.415	0.272	石見型		図 71-165	
28-396	前山 A58 号墳	20	0.421	0.548	2.70	0.358	0.503	0.223	石見型		図 71-166	
28-397	前山 A58 号墳	21	0.377	0.508	3.60	0.423	0.380	0.209	円筒	完形 (50%)	図 75-208	3条4段 V群系
28-398	前山 A58 号墳	22	0.414	0.533	3.08	0.447	0.479	0.354	円筒		図 75-209	V群系
28-399	前山 A58 号墳	23	0.353	0.471	2.27	0.460	0.530	0.251	円筒		図 75-210	V群系
28-400	前山 A58 号墳	24	0.318	0.458	3.24	0.327	0.516	0.224	円筒	口縁部	図 78-237	V群系
28-401	前山 A58 号墳	25	0.343	0.267	4.20	0.380	0.277	0.281	円筒	口縁部	図 78-238	V群系
28-402	前山 A58 号墳	26	0.391	0.572	3.29	0.421	0.478	0.310	円筒	口縁部	図 78-239	V群系
28-403	前山 A58 号墳	27	0.347	0.252	3.93	0.338	0.255	0.259	円筒	口縁部	図 78-242	V群系
28-404	前山 A58 号墳	28	0.391	0.409	3.19	0.443	0.451	0.315	円筒	口縁部	図 78-244	V群系
28-405	前山 A58 号墳	29	0.381	0.363	3.60	0.406	0.338	0.316	朝顔		図 79-246	
28-406	前山 A58 号墳	30	0.419	0.426	3.46	0.371	0.325	0.241	朝顔	口縁部	図 79-250	
28-407	前山 A58 号墳	31	0.392	0.323	3.43	0.436	0.298	0.334	朝顔	頸部	図 79-254	
28-408	大日山 35 号墳	1	0.399	0.467	3.23	0.385	0.455	0.190	家	家根	図 4-36-1	
28-409	大日山 35 号墳	2	0.390	0.465	3.07	0.366	0.459	0.207	家		図 4-37-5	
28-410	大日山 35 号墳	3	0.366	0.469	3.28	0.378	0.435	0.195	家	壁	図 4-38-7	
28-411	大日山 35 号墳	4	0.365	0.479	3.22	0.409	0.431	0.189	家	壁	図 4-38-8	
28-412	大日山 35 号墳	5	0.401	0.450	3.10	0.502	0.457	0.207	家	壁	図 4-38-12	
28-413	大日山 35 号墳	6	0.435	0.436	3.05	0.375	0.444	0.180	家	家根	図 4-39-4	
28-414	大日山 35 号墳	7	0.369	0.503	2.66	0.501	0.671	0.203	家	破風	図 4-40-1	
28-415	大日山 35 号墳	8	0.374	0.523	3.32	0.341	0.691	0.170	巫女	頭部	図 4-45-7	
28-416	大日山 35 号墳	9	0.344	0.481	3.17	0.391	0.557	0.196	巫女	胴部	図 4-45-8	
28-417	大日山 35 号墳	10	0.354	0.494	3.04	0.426	0.572	0.217	巫女	肩部	図 4-45-9	
28-418	大日山 35 号墳	11	0.363	0.490	3.12	0.376	0.554	0.220	巫女	腕部	図 4-46-6	
28-419	大日山 35 号墳	12	0.364	0.604	3.25	0.443	0.508	0.199	力士	脚部	図 4-51-1	

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（3）

三辻研No	古墳名	試料 No	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-420	大日山 35 号墳	13	0.431	0.458	3.10	0.489	0.425	0.188	力士	脚部	図 4-51-4	
28-421	大日山 35 号墳	14	0.400	0.518	3.20	0.442	0.432	0.242	動物	脚部	図 4-67-4	
28-422	大日山 35 号墳	15	0.400	0.482	3.31	0.409	0.410	0.253	動物	脚部	図 4-67-5	
28-423	大日山 35 号墳	16	0.370	0.470	3.58	0.392	0.338	0.233	動物	脚部	図 4-67-6	
28-424	大日山 35 号墳	17	0.349	0.502	3.27	0.416	0.485	0.194	翼を広げた鳥	胴部	図 4-83-2	
28-425	大日山 35 号墳	18	0.344	0.510	2.88	0.371	0.596	0.203	翼を広げた鳥		図 4-83-3	
28-426	大日山 35 号墳	19	0.345	0.476	2.72	0.409	0.590	0.206	翼を広げた鳥		図 4-83-4	
28-427	大日山 35 号墳	20	0.371	0.484	2.77	0.395	0.591	0.204	翼を広げた鳥		図 4-84-5	
28-428	大日山 35 号墳	21	0.396	0.489	2.78	0.390	0.685	0.197	翼を広げた鳥		図 4-84-6	
28-429	大日山 35 号墳	22	0.361	0.490	3.24	0.370	0.503	0.194	靱		図 4-92-8	
28-430	大日山 35 号墳	23	0.416	0.479	2.62	0.493	0.574	0.337	蓋	立飾り部	図 4-94-3	
28-431	大日山 35 号墳	24	0.357	0.440	2.94	0.377	0.508	0.262	蓋	立飾り部	図 4-94-5	
28-432	大日山 35 号墳	25	0.392	0.489	2.89	0.409	0.505	0.282	蓋	立飾り部	図 4-95-6	
28-433	大日山 35 号墳	26	0.373	0.472	2.88	0.387	0.586	0.198	蓋	立飾り部	図 4-96-9	
28-434	大日山 35 号墳	27	0.377	0.543	3.10	0.363	0.550	0.242	蓋	立飾り部	図 4-97-11	
28-435	大日山 35 号墳	28	0.311	0.508	3.13	0.337	0.534	0.216	蓋	立飾り部	図 4-97-12	
28-436	大日山 35 号墳	29	0.390	0.505	2.84	0.408	0.566	0.243	蓋	立飾り部	図 4-98-13、 4-99-13	
28-437	大日山 35 号墳	30	0.397	0.463	2.88	0.501	0.605	0.197	蓋	立飾り部	図 4-100-14、 4-101-14-2	
28-438	大日山 35 号墳	31	0.420	0.457	2.92	0.421	0.547	0.200	蓋	軸受部	図 4-102- 16	
28-439	大日山 35 号墳	32	0.325	0.477	2.98	0.353	0.541	0.223	蓋	笠部	図 4-102- 17	
28-440	大日山 35 号墳	33	0.345	0.484	2.85	0.389	0.551	0.244	蓋	笠部	図 4-102- 18	
28-441	大日山 35 号墳	34	0.399	0.524	3.17	0.347	0.578	0.180	蓋	笠部	図 4-102- 20	
28-442	大日山 35 号墳	35	0.421	0.452	2.94	0.374	0.555	0.195	蓋	笠部	図 4-102- 21	
28-443	大日山 35 号墳	36	0.390	0.472	2.97	0.366	0.558	0.187	蓋	笠部	図 4-102- 22	
28-444	大日山 35 号墳	37	0.386	0.482	3.13	0.471	0.530	0.198	形象	円筒基部	図 4-103- 15	
28-445	大日山 35 号墳	38	0.376	0.486	2.84	0.399	0.673	0.191	形象	円筒基部	図 4-103- 16	
28-446	大日山 35 号墳	39	0.413	0.438	3.06	0.498	0.456	0.207	不明形象		図 4-103- 17	
28-447	大日山 35 号墳	40	0.345	0.555	2.62	0.356	0.696	0.246	家	軒先部	図 5-5-5	
28-448	大日山 35 号墳	41	0.343	0.572	3.08	0.364	0.693	0.209	家	壁	図 5-5-9	

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（4）

三辻研No	古墳名	試料 No	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-449	大日山 35 号墳	42	0.304	0.467	3.27	0.328	0.515	0.213	人物	盛装男子 肩～頸	図 5-11-1	
28-450	大日山 35 号墳	43	0.306	0.491	3.25	0.321	0.433	0.202	人物	盛装男子腕	図 5-11-2	
28-451	大日山 35 号墳	44	0.337	0.506	3.11	0.355	0.563	0.203	人物	武人甲	図 5-12-1	
28-452	大日山 35 号墳	45	0.362	0.523	3.22	0.385	0.453	0.218	人物	草摺	図 5-12-3-1	
28-453	大日山 35 号墳	46	0.359	0.508	3.01	0.385	0.396	0.272	人物	草摺	図 5-12-3-2	
28-454	大日山 35 号墳	47	0.356	0.503	3.23	0.429	0.528	0.205	人物	草摺 or 巫女	図 5-12-4	
28-455	大日山 35 号墳	48	0.336	0.541	3.31	0.333	0.613	0.212	人物	巫女袈裟	図 5-19-6	
28-456	大日山 35 号墳	49	0.321	0.516	3.02	0.331	0.496	0.235	翼を広 げた鳥	胴部	図 5-36-2	
28-457	大日山 35 号墳	50	0.376	0.510	3.01	0.473	0.522	0.208	翼を広 げた鳥	胴部	図 5-36-3	
28-458	大日山 35 号墳	51	0.269	0.478	2.93	0.262	0.367	0.251	胡籛	収納部	図 5-39	
28-459	大日山 35 号墳	52	0.348	0.467	2.99	0.362	0.528	0.213	胡籛	収納部	図 5-39	
28-460	大日山 35 号墳	53	0.291	0.625	2.64	0.338	0.851	0.207	蓋	立飾り部	図 5-42-5	
28-461	大日山 35 号墳	54	0.283	0.597	2.49	0.301	0.805	0.230	蓋	立飾り部	図 5-43-6	
28-462	大日山 35 号墳	55	0.364	0.522	2.98	0.379	0.564	0.243	蓋	立飾り部	図 5-49-10	
28-463	大日山 35 号墳	56	0.395	0.538	2.91	0.421	0.575	0.230	蓋	立飾り部	図 5-50-12	
28-464	大日山 35 号墳	57	0.414	0.491	2.88	0.475	0.498	0.168	蓋	立飾り部	図 5-51-13	
28-465	大日山 35 号墳	58	0.369	0.512	2.74	0.369	0.575	0.244	蓋	笠部	図 5-52-18	
28-467	大日山 35 号墳	60	0.305	0.858	3.20	0.309	0.368	0.244	円筒		図 6-2-5	Ⅳ群系
28-468	大日山 35 号墳	61	0.293	0.976	2.72	0.287	0.410	0.376	円筒		図 6-2-6	Ⅳ群系
28-469	大日山 35 号墳	62	0.333	0.945	3.04	0.336	0.410	0.293	円筒		図 6-2-8	Ⅳ群系
28-470	大日山 35 号墳	63	0.316	0.939	2.74	0.326	0.394	0.320	円筒		図 6-2-9	Ⅳ群系
28-471	大日山 35 号墳	64	0.328	0.852	3.42	0.300	0.329	0.365	円筒		図 6-3-11	Ⅳ群系
28-472	大日山 35 号墳	65	0.314	1.050	2.73	0.345	0.425	0.322	円筒		図 6-3-13	Ⅳ群系
28-473	大日山 35 号墳	66	0.351	0.792	2.88	0.406	0.351	0.300	円筒		図 6-3-14	Ⅳ群系
28-474	大日山 35 号墳	67	0.305	1.280	3.52	0.215	0.505	0.291	円筒		図 6-3-15	Ⅳ群系
28-475	大日山 35 号墳	68	0.310	0.865	2.79	0.334	0.394	0.292	円筒		図 6-3-16	Ⅳ群系
28-476	大日山 35 号墳	69	0.304	0.912	3.38	0.314	0.398	0.369	朝顔		図 6-3-17	Ⅳ群系
28-477	大日山 35 号墳	70	0.382	0.482	2.97	0.482	0.571	0.229	円筒		図 6-4-20	Ⅴ群系
28-478	大日山 35 号墳	71	0.365	0.422	3.02	0.447	0.523	0.285	円筒		図 6-4-21	Ⅴ群系

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（5）

三辻研№	古墳名	試料 №	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-479	大日山 35 号墳	72	0.306	0.383	3.22	0.295	0.345	0.212	円筒		図 6-4-22	V 群系
28-480	大日山 35 号墳	73	0.405	0.515	2.63	0.569	0.810	0.206	円筒		図 6-5-23	V 群系
28-481	大日山 35 号墳	74	0.322	0.496	3.04	0.345	0.577	0.184	円筒		図 6-5-24	V 群系
28-482	大日山 35 号墳	75	0.373	0.387	3.13	0.361	0.362	0.264	円筒		図 6-5-25	V 群系
28-483	大日山 35 号墳	76	0.322	0.520	2.75	0.426	0.596	0.203	朝顔		図 6-5-26	V 群系
28-484	大谷山 22 号墳	1	0.271	1.080	4.17	0.226	0.223	0.281	円筒		図 12-1	IV 群系
28-485	大谷山 22 号墳	2	0.287	1.100	4.09	0.246	0.280	0.288	円筒	口縁部	図 12-5	IV 群系
28-486	大谷山 22 号墳	3	0.289	0.785	3.56	0.288	0.424	0.394	円筒	突帯	図 13-8	IV 群系
28-487	大谷山 22 号墳	4	0.298	0.866	3.34	0.277	0.307	0.411	円筒	突帯	図 13-9	IV 群系
28-488	大谷山 22 号墳	5	0.237	1.470	3.22	0.234	0.417	0.281	円筒	底部	図 13-15	IV 群系
28-489	大谷山 22 号墳	6	0.310	0.966	3.38	0.303	0.336	0.399	円筒	底部	図 13-17	IV 群系
28-490	大谷山 22 号墳	7	0.222	0.549	3.08	0.270	0.452	0.214	円筒		図 14-19	V 群系
28-491	大谷山 22 号墳	8	0.283	0.565	2.97	0.297	0.510	0.198	円筒	突帯	図 14-20	V 群系
28-492	大谷山 22 号墳	9	0.255	0.271	3.67	0.252	0.295	0.259	円筒	突帯	図 14-25	V 群系
28-493	大谷山 22 号墳	10	0.327	0.516	2.95	0.395	0.416	0.220		突帯	図 15-28	V 群系
28-494	大谷山 22 号墳	11	0.364	0.429	3.06	0.338	0.459	0.162	円筒	突帯	図 15-30	V 群系
28-495	大谷山 22 号墳	12	0.382	0.296	2.91	0.430	0.281	0.275	円筒	突帯	図 15-33	V 群系
28-496	大谷山 22 号墳	13	0.403	0.413	2.83	0.515	0.438	0.244	円筒	底部	図 15-35	V 群系
28-497	大谷山 22 号墳	14	0.388	0.568	2.79	0.426	0.509	0.189	円筒	底部	図 15-38	V 群系
28-498	大谷山 22 号墳	15	0.286	1.010	4.51	0.256	0.240	0.331	朝顔		図 16-39	IV 群系
28-499	大谷山 22 号墳	16	0.285	1.030	4.22	0.234	0.237	0.341	朝顔		図 16-40	IV 群系
28-500	大谷山 22 号墳	17	0.290	0.973	3.64	0.271	0.236	0.356	朝顔		図 16-43	IV 群系
28-501	大谷山 22 号墳	18	0.323	0.506	2.99	0.336	0.373	0.220	盾	盾部	図 17-45	
28-502	大谷山 22 号墳	19	0.388	0.520	2.82	0.416	0.426	0.195	盾	円筒部	図 17-46	
28-503	大谷山 22 号墳	20	0.255	0.525	2.86	0.305	0.462	0.205	盾	円筒部	図 18-47	
28-504	大谷山 22 号墳	21	0.396	0.553	2.78	0.442	0.440	0.224	盾	盾部	図 18-48	
28-505	大谷山 22 号墳	22	0.332	0.539	2.87	0.389	0.595	0.185	盾	盾部	図 18-49	
28-506	大谷山 22 号墳	23	0.236	0.572	3.14	0.292	0.493	0.214	盾	盾部	図 18-50	
28-507	大谷山 22 号墳	24	0.247	0.573	3.14	0.264	0.459	0.205	盾	盾部	図 18-51	

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（6）

三辻研No	古墳名	試料 No	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-508	大谷山 22 号墳	25	0.396	0.486	2.85	0.393	0.524	0.206	盾	盾部	図 18-52	
28-509	大谷山 22 号墳	26	0.418	0.405	2.73	0.464	0.525	0.320	蓋	飾り部	図 19-54	
28-510	大谷山 22 号墳	27	0.392	0.339	3.14	0.415	0.447	0.273	蓋	飾り部	図 19-56	
28-511	大谷山 22 号墳	28	0.363	0.360	2.90	0.396	0.512	0.268	蓋	飾り部	図 19-57	
28-513	大谷山 22 号墳	30	0.335	0.394	3.14	0.359	0.510	0.247	蓋	飾り部	図 19-61	
28-514	大谷山 22 号墳	31	0.249	0.543	3.01	0.284	0.628	0.191	蓋	飾り部	図 19-62	
28-515	大谷山 22 号墳	32	0.340	0.424	3.12	0.321	0.418	0.215	蓋	笠部	図 19-64	
28-516	大谷山 22 号墳	33	0.379	0.374	3.02	0.402	0.380	0.281	蓋	笠部	図 19-65	
28-517	大谷山 22 号墳	34	0.342	0.329	3.39	0.310	0.331	0.257	蓋	笠部	図 19-67	
28-518	大谷山 22 号墳	35	0.375	0.349	3.15	0.343	0.335	0.286	蓋	基部	図 19-68	
28-519	大谷山 22 号墳	36	0.413	0.516	2.72	0.556	0.514	0.225	蓋	飾り部	図 20-69	
28-520	大谷山 22 号墳	37	0.381	0.369	3.03	0.371	0.279	0.236	形象		図 21-71	
28-521	大谷山 22 号墳	38	0.405	0.384	2.72	0.457	0.404	0.332	形象		図 21-72	
28-522	大谷山 22 号墳	39	0.330	0.517	3.10	0.326	0.409	0.203	形象		図 21-73	
28-523	大谷山 22 号墳	40	0.245	1.630	3.87	0.172	0.415	0.269	朝顔	突帯	未掲載	Ⅳ群系
28-524	大谷山 22 号墳	41	0.199	1.710	4.02	0.174	0.401	0.320	円筒	口縁部	未掲載	Ⅳ群系
28-525	大谷古墳	1	0.402	0.225	2.72	0.322	0.365	0.309	円筒	底部		No. 1
28-526	大谷古墳	2	0.431	0.325	2.93	0.406	0.421	0.323	円筒	口縁部		No. 2
28-527	大谷古墳	3	0.602	0.164	2.08	0.515	0.472	0.289	形象?			No. 3
28-528	大谷古墳	4	0.449	0.310	2.50	0.450	0.460	0.327	円筒	突帯		No. 4
28-529	大谷古墳	5	0.477	0.239	2.90	0.383	0.429	0.300	円筒	突帯		No. 5
28-530	大谷古墳	6	0.597	0.184	2.94	0.425	0.353	0.356	円筒	底部		No. 6
28-531	大谷古墳	7	0.515	0.224	2.35	0.481	0.419	0.369	円筒	突帯		No. 7
28-532	大谷古墳	8	0.500	0.176	2.64	0.360	0.444	0.296	円筒	口縁部		No. 8
28-533	大谷古墳	9	0.544	0.261	3.22	0.469	0.472	0.345	円筒	突帯		No. 9
28-534	大谷古墳	10	0.512	0.256	2.49	0.441	0.375	0.327	円筒	突帯		No. 10
28-535	平井 1 号墳	1	0.284	1.300	3.52	0.251	0.383	0.274	円筒	口縁部	H25 年報 2	Ⅳ群系
28-536	平井 1 号墳	2	0.399	0.546	3.44	0.368	0.373	0.248	円筒	突帯	H25 年報 3	Ⅴ群系
28-537	平井 1 号墳	3	0.299	1.470	3.72	0.301	0.375	0.324	円筒	突帯	H25 年報 4	Ⅳ群系

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（7）

三辻研No.	古墳名	試料 No.	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-538	平井 1 号墳	4	0.306	1.420	3.78	0.320	0.361	0.289	円筒	突帯	H25 年報 5	Ⅳ群系
28-539	平井 1 号墳	5	0.315	0.408	3.51	0.385	0.274	0.450	円筒	底部	H25 年報 8	タタキ有り
28-540	平井 1 号墳	6	0.362	0.305	3.81	0.386	0.357	0.223	家	家根	H25 年報 9	
28-541	平井 1 号墳	7	0.332	0.279	3.36	0.404	0.324	0.234	形象		H25 年報 10	
28-542	平井 1 号墳	8	0.394	0.431	3.13	0.466	0.394	0.238	形象		H25 年報 11	
28-543	平井 1 号墳	9	0.347	0.659	3.55	0.288	0.358	0.254	円筒	底部	H25 年報 12	V 群系？
28-544	平井 1 号墳	10	0.379	0.440	3.15	0.404	0.402	0.251	人物		H25 年報 14	
28-545	平井 1 号墳	11	0.419	0.398	3.00	0.491	0.436	0.219	円筒		H25 年報 15	V 群系
28-546	平井 1 号墳	12	0.390	0.452	3.17	0.327	0.411	0.185	円筒	底部	H25 年報 16	形象基部
28-547	平井 1 号墳	13	0.299	1.520	3.61	0.320	0.566	0.283	円筒	突帯	未掲載	V 群系
28-548	平井 1 号墳	14	0.385	0.581	3.25	0.379	0.366	0.262	円筒	突帯	未掲載	Ⅳ群系
28-549	花山 6 号墳	1	0.310	0.907	3.36	0.278	0.390	0.316	円筒	底部		8 号埴輪
28-550	花山 6 号墳	2	0.307	0.969	3.65	0.435	0.397	0.347	円筒	突帯		9 号埴輪
28-551	花山 6 号墳	3	0.260	1.230	3.25	0.264	0.531	0.273	円筒	底部		15 号埴輪
28-552	花山 6 号墳	4	0.316	1.260	3.47	0.303	0.597	0.322	円筒	底部		23 号埴輪
28-553	花山 6 号墳	5	0.284	1.220	3.16	0.281	0.524	0.277	円筒	底部～ 一段目突帯		34 号埴輪
28-554	花山 6 号墳	6	0.291	1.310	3.43	0.264	0.516	0.268	円筒	底部		38 号埴輪
28-555	花山 6 号墳	7	0.333	1.230	3.19	0.356	0.691	0.345	円筒	底部～ 一段目突帯		41 号埴輪
28-556	花山 6 号墳	8	0.303	1.280	3.10	0.263	0.818	0.304	円筒	底部		42 号埴輪
28-557	花山 6 号墳	9	0.331	0.918	3.11	0.350	0.543	0.376	円筒	底部～ 一段目突帯		48 号埴輪
28-558	花山 6 号墳	10	0.277	1.230	3.40	0.260	0.634	0.287	円筒	底部		51 号埴輪
28-559	花山 6 号墳	11	0.306	0.860	3.58	0.318	0.567	0.393	円筒	底部		南 E 号
28-560	花山 6 号墳	12	0.322	0.920	3.27	0.357	0.549	0.368	朝顔	頸部		12,44
28-561	花山 6 号墳	13	0.311	0.835	3.51	0.362	0.422	0.352	朝顔	底部		12,44
28-562	花山 6 号墳	14	0.310	0.851	3.44	0.289	0.449	0.342	朝顔	突帯		11 号埴輪
28-563	花山 6 号墳	15	0.275	1.080	3.31	0.270	0.557	0.311	朝顔	底部		11 号埴輪
28-564	花山 6 号墳	16	0.275	1.060	3.44	0.279	0.708	0.276	朝顔	底部		43 号埴輪
28-565	花山 6 号墳	17	0.284	0.967	3.02	0.280	0.727	0.296	朝顔	底部		43 号埴輪
28-566	花山 6 号墳	18	0.273	0.992	3.59	0.266	0.496	0.347	朝顔	頸部～一次口縁		54 号埴輪

和歌山県内出土埴輪 蛍光X線分析値一覧表（8）

三辻研No	古墳名	試料 No	分 析 値						器 種	部 位	既 報 告 挿図番号	備 考
			K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na				
28-567	花山 6 号墳	19	0.292	0.781	3.42	0.339	0.411	0.400	朝顔	一次口縁		南H号(212)
28-568	花山 6 号墳	20	0.300	1.280	3.34	0.251	0.575	0.261	蓋	笠部		16
28-569	花山 6 号墳	21	0.317	1.190	3.13	0.321	0.501	0.295	家	屋根		家形埴輪Ⅰ
28-570	花山 6 号墳	22	0.302	1.290	3.19	0.320	0.544	0.292	家			家形埴輪Ⅰ
28-571	花山 6 号墳	23	0.256	1.220	3.24	0.309	0.520	0.309	家	壁		家形埴輪Ⅱ
28-572	花山 6 号墳	24	0.287	1.290	3.33	0.291	0.557	0.326	動物	脚部		人 5
28-573	花山 6 号墳	25	0.234	1.250	3.20	0.326	0.532	0.345	動物	脚部		人 11
28-574	花山 6 号墳	26	0.250	1.060	3.12	0.297	0.580	0.303	動物	脚部		人 12
28-575	花山 6 号墳	27	0.382	0.116	3.08	0.347	0.396	0.306	動物	鼻部		4、3
28-576	花山 6 号墳	28	0.371	0.145	2.63	0.384	0.385	0.339	馬	尻尾		人物埴輪,35
28-577	花山 6 号墳	29	0.365	0.146	2.83	0.380	0.392	0.305	馬	尻尾		人物埴輪,35
28-578	花山 6 号墳	30	0.267	1.320	3.39	0.305	0.572	0.295	人物	顔部		
28-579	花山 6 号墳	31	0.261	1.370	3.40	0.304	0.513	0.305	人物	腕部		南造出し
28-580	花山 6 号墳	32	0.254	1.160	3.29	0.347	0.515	0.318	人物	腕部		南造出し
28-581	花山 6 号墳	33	0.257	1.310	3.33	0.383	0.529	0.326	人物	腕部		南造出し
28-582	花山 6 号墳	34	0.271	1.150	3.26	0.320	0.555	0.314	人物	腕部		南造出し
28-583	花山 6 号墳	35	0.355	0.104	3.05	0.331	0.337	0.247	形象			北側造出し 158号付近出土
28-584	花山 6 号墳	36	0.385	0.124	2.72	0.391	0.363	0.302	形象?			花山 6 号北

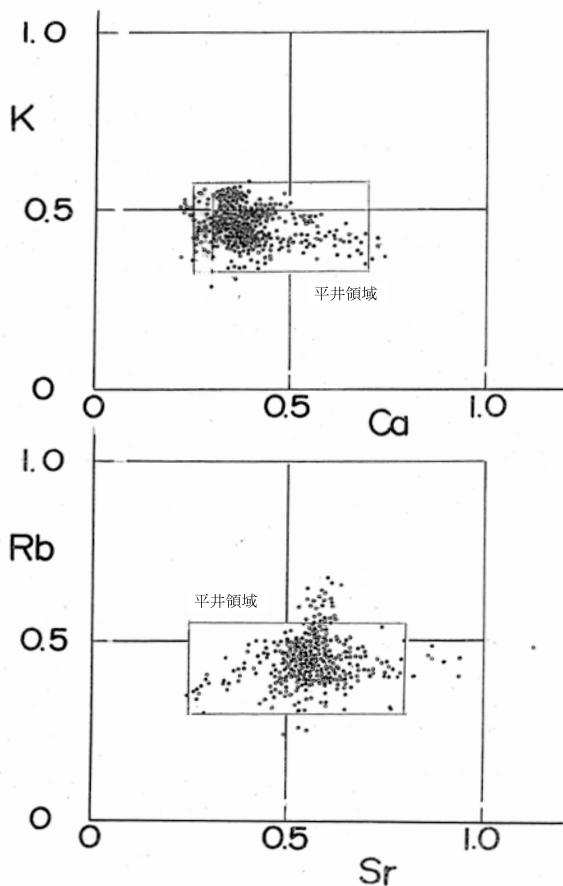


図1 平井遺跡出土埴輪の両分布図

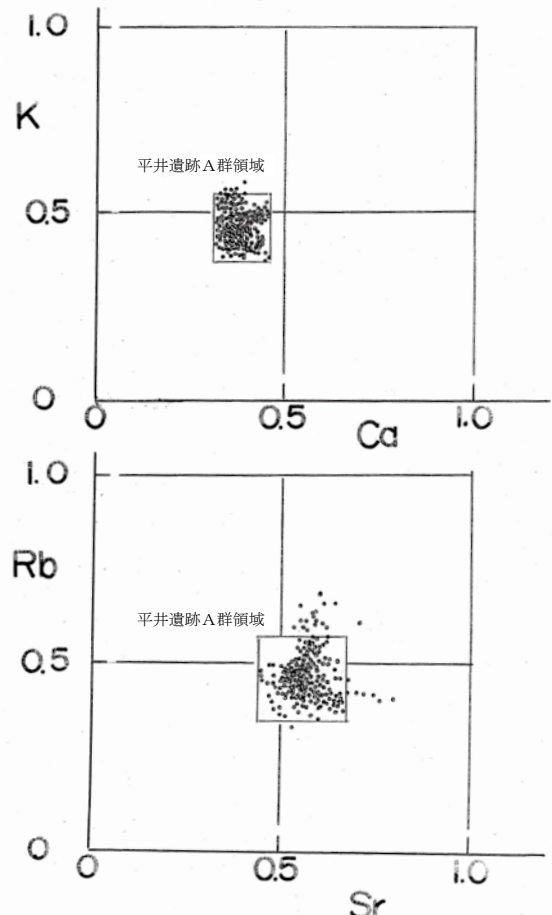


図2 平井遺跡A群埴輪の両分布図

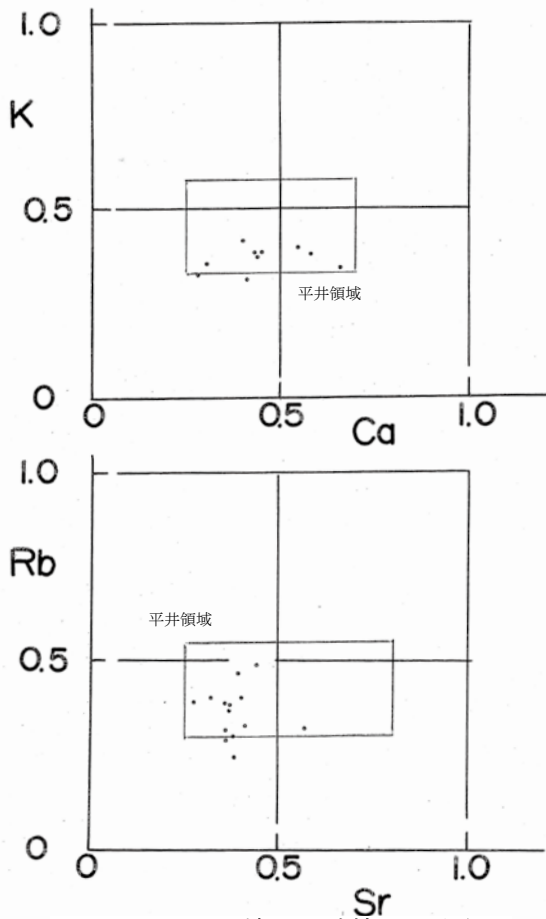


図3 平井1号墳出土埴輪の両分布図

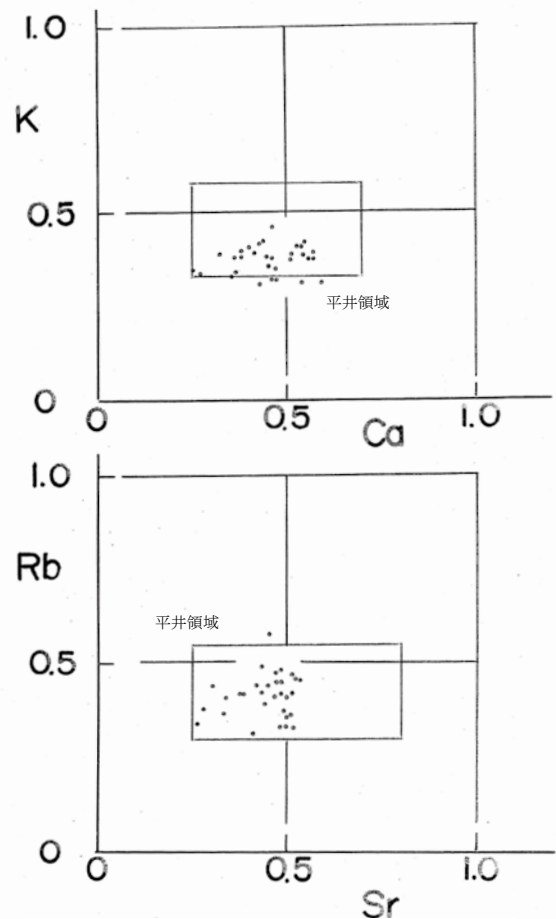


図4 前山A58号墳出土埴輪の両分布図

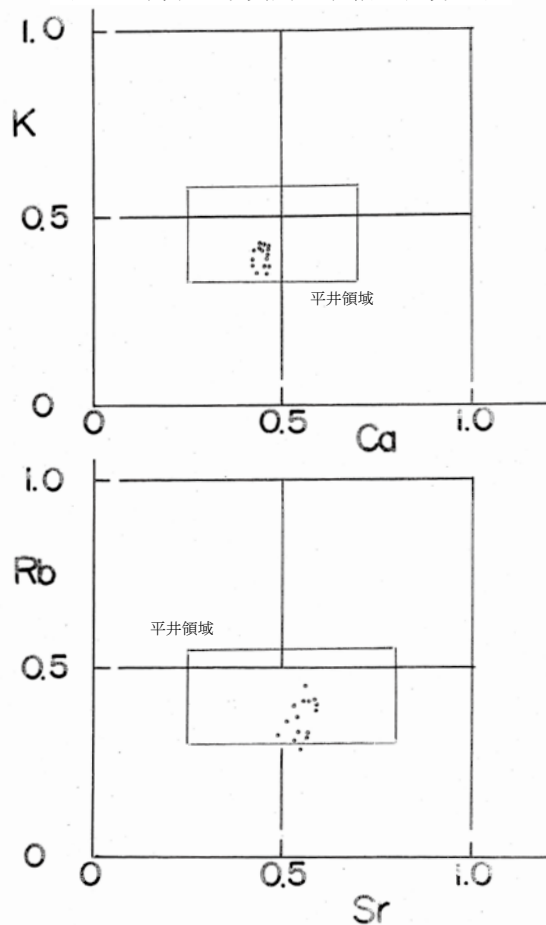


図5 花山45号墳出土埴輪の両分布図

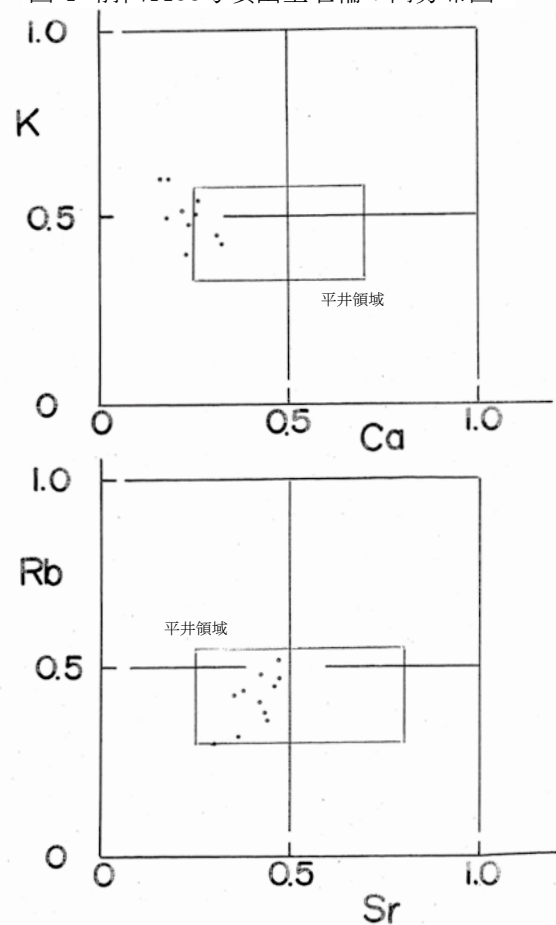


図6 大谷古墳出土埴輪の両分布図

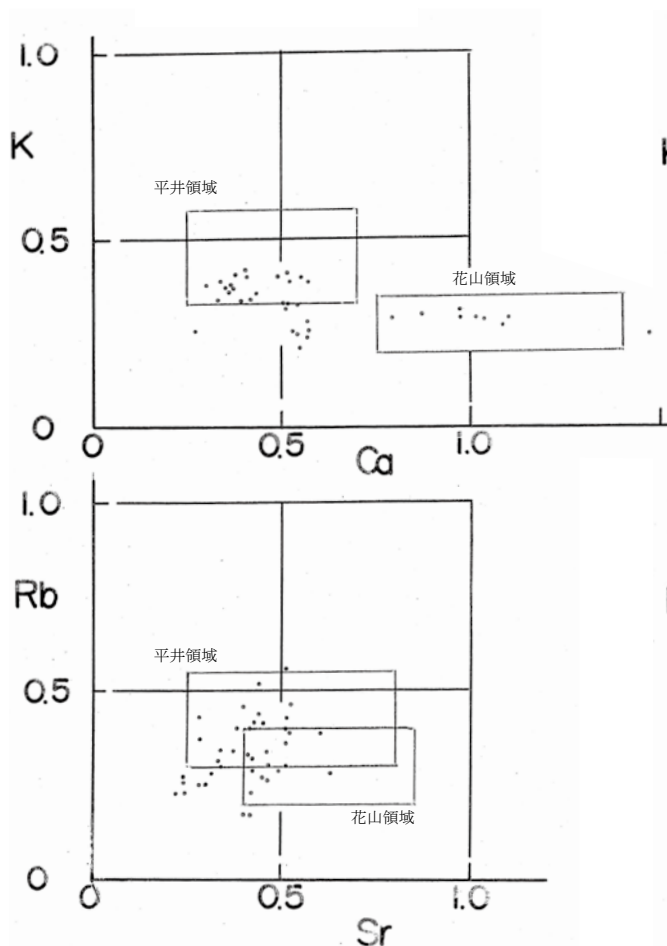


図7 大谷山22号墳出土埴輪の両分布図

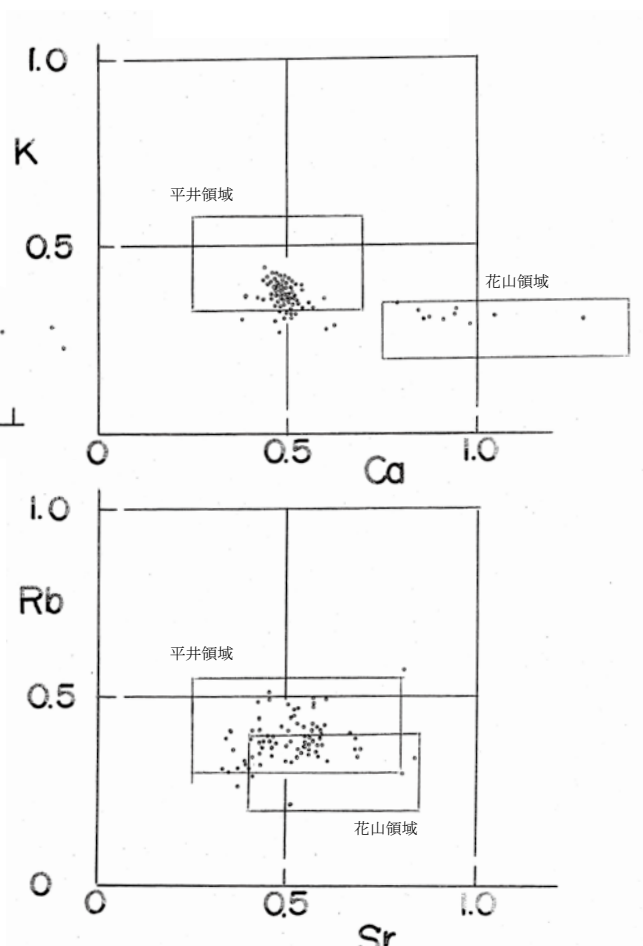


図8 大日山35号墳出土埴輪の両分布図

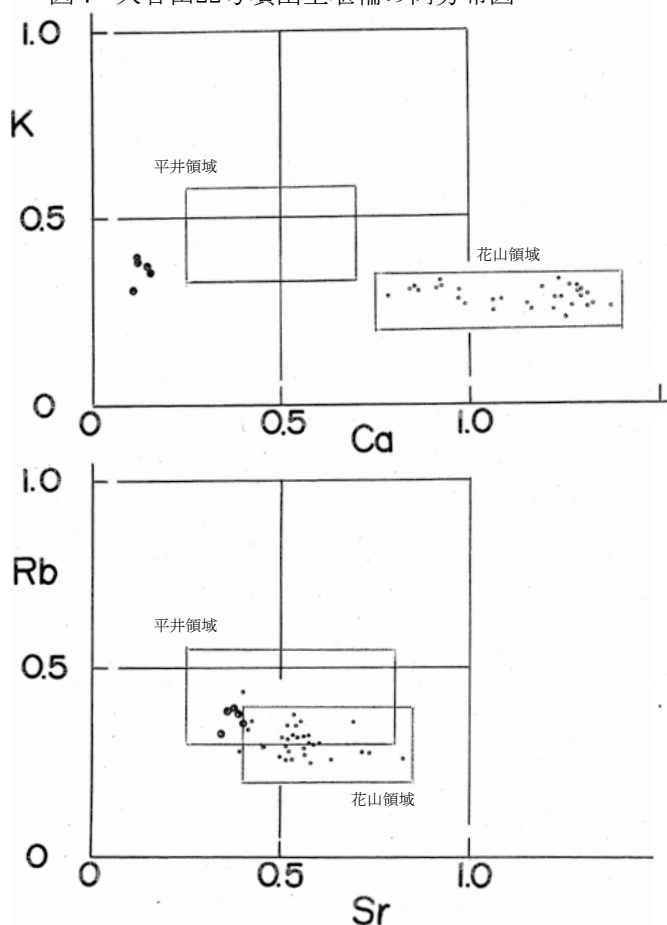


図9 花山6号墳出土埴輪の両分布図

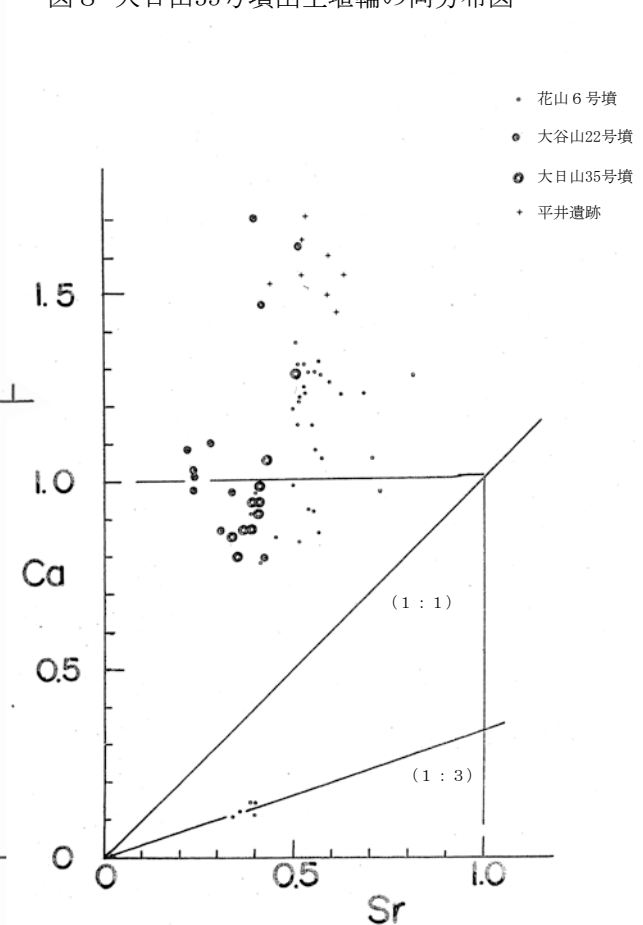


図10 花山6号墳出土埴輪および他古墳出土の「花山領域」に含まれる埴輪のCa-Sr相関図

大岡實博士文庫に所収される 安楽寺多宝小塔関連資料

はじめに

大岡實氏（1900～1987）は東京大学工学部建築学科を大正15年に卒業以来、文部省技師・研究者・教育者として文化財建造物保存や建築史学の分野において終生指導的役割を果たしてきた。氏の蔵書や関係資料は没後、川崎市立日本民家園に寄贈され大岡實博士文庫（以降「大岡資料」と記す）として目録が刊行され、研究などに活用されている。

大岡資料のなかに安楽寺多宝小塔に関連する資料の存在が確認できたため、日本民家園において現物資料の確認を行った。本稿ではその結果を報告する。

資料の概要

現在、日本民家園は大岡資料の目録を5冊刊行しており（内1冊は新築設計関係）、そのうち2冊に安楽寺多宝小塔関連の資料が掲載されている（参考資料参照）。これらについて、実地にて調査を実施したところ、この他に3点の関連資料の存在が判明し、併せて調査を行った。資料は以下の5点である。

資料1. 多宝小塔の写真

資料2. 多宝小塔本尊（大日如来）の写真

資料3. 多宝小塔基壇及び露盤の格狭間摺り本

資料4. 出張復命書

資料5. 文化財専門審議会審議報告

表1 写真資料『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅰ』より抜粋

分類番号	整理番号	資料名	形式	寸法	材質	状態
1-1-1-0	01-30-41-01	安楽寺多宝小塔正面	NM	手札	G	良
1-1-1-0	01-30-41-02	安楽寺多宝小塔正側面	NM	手札	G	剥
1-1-1-0	01-30-41-03	安楽寺多宝小塔正側面	NM	手札	G	剥
1-1-1-0	01-30-41-04	安楽寺多宝小塔下層隅部	NM	手札	G	良
1-1-1-0	01-30-41-05	安楽寺多宝小塔基壇	NM	手札	G	良
1-1-1-0	01-30-41-06	安楽寺多宝小塔基壇隅部	NM	手札	G	良
1-1-1-0	31-30-41-01	安楽寺多宝小塔内木造大日如来坐像	NM	手札	G	剥

N：ネガ M：モノクロ G：ガラス乾板 良：良好 剥：剥離

表2 摺本資料

『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅱ 図面資料及び摺拓本資料目録』より抜粋

分類番号	整理番号	資料名	頁数	形式	材質	状態	保管状態
3-096-01-08	01-30-41-01	安楽寺多宝小塔基壇格狭間	1	摺	和	良	封
3-096-02-08	01-30-41-02	安楽寺多宝小塔基壇格狭間	1	摺	和	良	封
3-096-03-08	01-30-41-03	安楽寺多宝小塔基壇格狭間	1	摺	和	良	封
3-096-04-08	01-30-41-04	安楽寺多宝小塔基壇格狭間	1	摺	和	良	封
3-096-05-08	01-30-41-05	安楽寺多宝小塔基壇格狭間	1	摺	和	良	封
3-096-06-08	01-30-41-06	安楽寺多宝小塔基壇格狭間	1	摺	和	良	封
3-096-07-08	01-30-41-07	安楽寺多宝小塔露盤格狭間	2	摺	和	良	封

摺：摺本 和：和紙 良：良好 封：封筒に入れて保管



写真1 資料全体（①：資料1、以下同じ）

資料1. 多宝小塔の写真について

「大岡實博士文庫写真資料目録Ⅰ」の84ページに表1の通り記述がある。これを見ると、原本は手札サイズのガラス乾板（ネガ、モノクロ）であることが判るが、保管上の都合や劣化防止などの理由から、今回の調査はガラス乾板を元に紙焼きした写真について実施した。（資料2についても同様）

写真は周辺部にガラス乾板の劣化による影などがみられるものの概ね良好な状態であり、多宝小塔の状態を子細に確認することが出来る。

撮影時期は資料4に写真03と06が使用されていることから、資料4と同時で、昭和18年と判る。

写真を見る限り、現状と大きく異なる箇所は認められなかった。二重大斗は修理前と同様の状態（正面左側は化粧垂木を飼い物として代用）が確認できる。

また、他の記録より多宝小塔が収蔵されているのは、明治33年に元あった建物の部材を一部再用して改築された阿弥陀堂と考えられるが、写真に写る架構より、桁行を2室に分割した入母屋造りの小規模な建物と推定できる。昭和54年7月15日に発行された『塔の建築』『日本の美術第158号』や昭和44年刊行の『日本佛塔の研究』に掲載されている写真も同じ建物内に収蔵されているが、左上部の化粧屋根の腐朽が顕著に進行している。このことから、写真の撮影時期は昭和18年であることが裏付けられる。

資料2. 多宝小塔本尊の写真について

同じく「目録Ⅰ」の3. 美術工芸品の項に表1の通り、多宝小塔の本尊である大日如来について記述がある。形式等は資料1と同じで、状態は剥離となっている（表1）。撮影時期も資料1と同時期と考えられる。写真を見ると、下辺に黒ズミが見られるものの、全体的な状態は悪くない。

仏像は多宝小塔から外に出し、白色の背景を設置して撮影されている。現状の仏像と比較しても差異は認められず、当時より現在までに手が加わっていないことが判る。仏像に関する所見は残されていないが、目録を見ると美術工芸品の撮影点数は建造物に比べて大幅に少ないことから、この小さな本尊に何かしら強い興味を抱かれたと推察される。

資料3. 多宝小塔の摺本について

「大岡博士文庫写真資料目録Ⅱ 図面資料及び摺拓本資料目録」の424ページに表2の通りの記述がある。これによると、基壇格狭間の摺本が6点、露盤格狭間が2点の、計8点の摺本が確認できる。

それぞれに「和歌山縣有田郡城山村二川 安楽寺多宝塔」と「昭和一八、三、一〇 写」と記載されている。このことから、摺本が作成されたのは資料1, 2, 4と同じ昭和18年であることが判る。

基壇格狭間にはさらに「基壇」「基壇狭間」「基壇サマ」と書かれているものもある。露盤格狭間は一枚の紙に二面が取られており、「露盤狭間」と記されている。

基壇格狭間の摺り本採取位置は記載がないが、幅及び木目などから中央間、両脇間、両端間のそれぞれ1箇所（右側面と推定）を2点ずつ取っていることが判る。露盤格狭間は木目より右側面を2点取っていることが判る。

現状と比較して特に異なる点は認められなかった。

資料4. 出張復命書について

本資料は「出張復命書 大岡」と表紙に記されて綴じられた資料となる。その体裁と内容より、大岡氏が文部技師（昭和15年～）時代に全国各地で調査を実施した際の復命書の控えを綴ったものと考えられる。

その内、安楽寺多宝小塔について言及がある部分は、昭和18年3月1日～12日にかけて行われた大阪府及び和歌山県の「国寶並重要美術品等指定認定候補物件調査並次期国寶建造物修理二関した打合ノ為」の出張に関する復命書（同3月16日に記されている）である。

安楽寺多宝小塔についての記述は〔和歌山県之部〕に以下の通り記されている。

ー以下抜粋ー（※は筆者）

安楽寺 全郡（※）岩倉村二川

重美◎多寶塔模型 方三間木造多寶塔

総高約七尺現在醜惡ナル色彩ヲ施シアレドモ原型は古キモノニシテ当初ノモノハ平安朝末或ハ鎌倉初期ノ形式ヲ示セリ唯室町時代ノ初期ニ相当大ナル修補ヲ施サレタルモノノ如ク飛檐部分屋根等ガ改修を受けケルモ軸部斗拱、地杵迄ハ元ノモノヲ存ス、多少田舎作ノ嫌ハアレド實に□□ナルモノナリ。

ー以下略ー

※有田郡

後半には写真が掲載されており、資料1の写真が使用されていることから、前述の通り資料1は本資料と同時期のものであると判断出来る。

安楽寺多宝小塔は昭和19年に重要美術品に認定されていることから、本資料はそれに係る事前調査であったと考えられる。

時代考証は全体的に古式に寄っているが、これは建築史体系が確立する以前の評価であることを勘案する必要がある。また、一重の組物形式や柱の面取り比率が金剛三昧院多宝塔（貞応2年・1223）と同じで、また二重組物形式や全体プロポーションなども比較的似ていることから、安楽寺多宝小塔は金剛三昧院多宝塔を参考として造られたと筆者は考えているが、大岡氏もあるいは同様の印象を受けたのではないかと想像を膨らませてしまう。

資料5. 文化財専門審議会審議報告について

本資料は表紙がなく、一枚目に「文化財専門審議会第十二回第二分科会打合会審議報告」と記されており、日時、場所、出席者に続いて議事が記されている。これによると、本資料は昭和28年3月4日に開催された上記打合会の報告と判る。出席者の欄に大岡氏の名前はみられず、委員、幹事のみが記されていることから、大岡氏が記録者で、本資料はその控えであった可能性が考えられる。なお、大岡氏は昭和29年12月に文化財保護専門審議会専門委員に就任している。

議事内容は現状変更と新指定に大別でき、新指定はさらに重要美術品からの格上げと、新規の指定に分けられる。

安楽寺多宝小塔が関連するのは「議事」の「一、重要美術品等認定物件円光寺本堂他四件の重要文化財指定について」のうち、「指定関係」「重美よりの部」に記述がある。

ー以下抜粋ー

五、安楽寺多宝塔

名称を安楽寺多宝小塔と修正して可決

ー以下略ー

この内容より、指定時に初めて「多宝小塔」とされたことが判る。この際に何かしらの議論があった可能性が高いが、言及がないため不明である。

また本文より、当時、重要美術品から指定文化財への「格上げ」が重点的に行われており、「木造のものは八分とおりの目的を達している」状況と記されている。なお、「重美よりの格上げは事務的に終了した時を以て打切る。その期間は文化財保護法公布以降五年を目標としている。」との関野幹事（関野克か）の発言があり、当時の事情が窺い知れて興味深い。

まとめ

安楽寺多宝小塔は昭和 19 年に重要美術品に認定され、昭和 28 年に重要文化財に指定されている。今回実見した資料は、重要美術品認定時の調査に関するもの（資料 1～4）と重要文化財指定時に関するもの（資料 5）である。つまり、本資料群をもって、安楽寺多宝小塔が文化財として経てきた経歴を辿ることが可能となった。また、その当時から大きく手が加わっていないことも明らかとなった。これらの意味で、本資料群は重要な価値をもつ資料と言える。（結城 啓司）

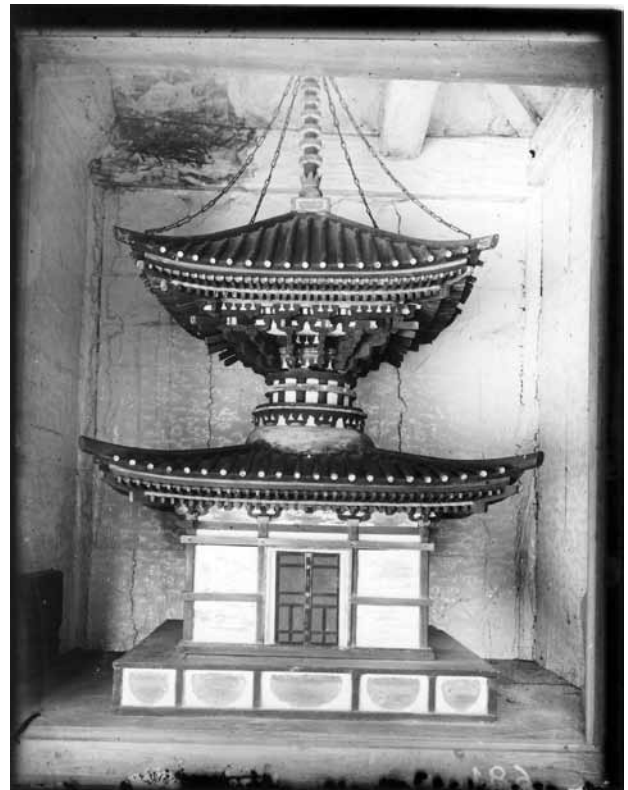


写真2 01-30-41-01 安楽寺多宝小塔正面

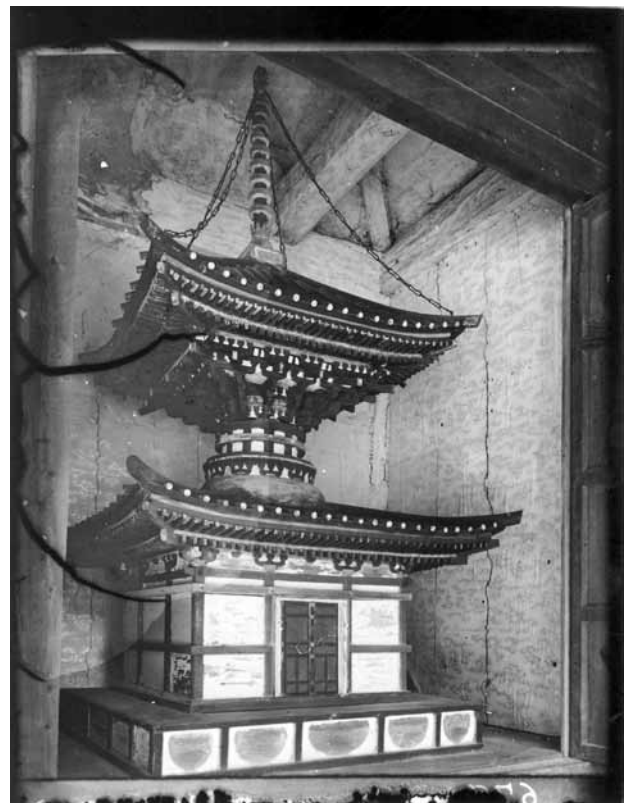


写真3 01-30-41-03 安楽寺多宝小塔正側面

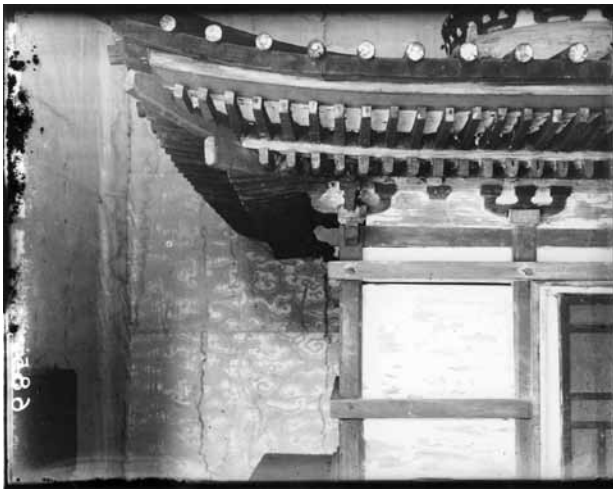


写真4 01-30-41-04 安楽寺多宝小塔下層隅部

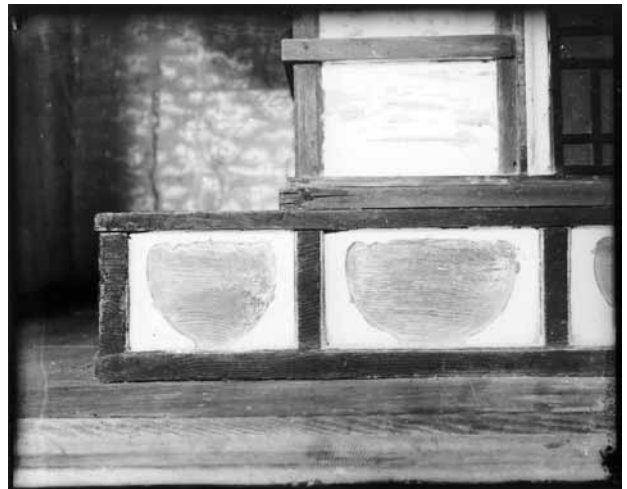


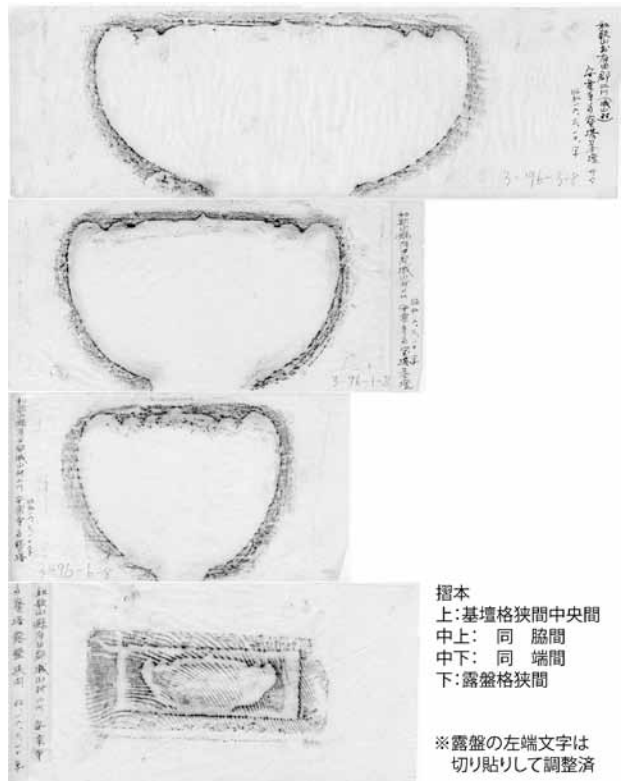
写真7 01-30-41-06 安楽寺多宝小塔基壇隅部



写真5 01-30-41-05 安楽寺多宝小塔基壇



写真6 31-30-41-01 木造大日如来坐像



【参考文献】

1. 『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅰ』川崎市立日本民家園、1998年3月
2. 『大岡實博士文庫写真資料目録Ⅱ・図面資料及び摺拓本資料目録』川崎市立日本民家園、2000年3月
3. 大岡實建築研究所ホームページ (<http://ohoka-inst.com>)

西村伊作氏の「住家」に対する考えと想い

はじめに

新宮市にある旧西村家住宅（通称・西村記念館）は、大正3年（1914）～4年にかけて西村伊作氏（以下「伊作氏」）が自ら設計と監督をおこなって建てた3度目の自邸です。現在行っている保存修理事業では、破損部分を中心に解体を進めています。そのなかで実施した調査によって、この建物の特徴が新たに明らかとなつて来ています。

これまでの研究で紹介されているとおり、伊作氏が住宅の設計や教育の改革を通して生活様式の改善を提唱して来たことは有名です。生活様式の近代化の一助となったことに加えて、その象徴的な建物でもある自邸が国指定の文化財として高く評価されたことで、より明確なものとなりました。文化の地域性や時代性と合わせて評価されることも多い文化財において、一個人の考え方や思想も含めた部分が評価されたという点は、注目に値します。

ここでは、その評価された考え方や思想について、もう少しわかりやすく、伊作氏が何を考え、何を思ったのか、を探ってみます。伊作氏が1918年9月に著し、

重版されるほど当時の国民の反響も大きかった『^{たの}しき住家』（警醒社）を取り上げて、その内容が自邸ではどのように実践され、さらには改良・改善されたのか、また、それらを通して伊作氏の考えや思いがどのように発信されたのか、を紹介します。

伊作氏の住宅に対する考え

伊作氏は、建築学を大学などでは学ばず、取り寄せた洋書を読み、海外旅行などで得た経験をもとに、自邸や家具の設計を始めます。最初に設計した自邸は、明治38年（1905）頃、21歳の時、「バンガロー」と称される平屋建ての建物でした。4年後にはその建物を徒歩数分の位置にある現在の敷地へと移し、2階建てに改造します。さらにその5年後には、同じ地に現在の建物を新たに建て替えました。

いずれも主な理由は、子どもが生まれて（家族が増えて）狭くなった、と一般的なものですが、その住宅に望んだもの、その住宅における生活のなかに求めたものは並々ならぬものであったことが、著書『^{たの}しき住家』から読み取れました。

まずは、『^{たの}しき住家』の概要を章ごとにまとめた表1を使ってみていきます。章立てをみると、自らの住宅に対する思い出から語り始めて、そのなかで感

表1 『^{たの}しき住家』の構成と概要

章	頁	題 名	主 な 内 容	強 調 さ れ る 点
1	1	私のこと	住居に対する私見	人間と住居の関係、自然との関わり
2	11	楽しい生活のため	住居は生活を楽しむ基点	
3	19	よい土地	宅地を選ぶ際の留意点	
4	30	西洋風の家	西洋住宅の間取りの紹介 (部屋の配置・設えを解説)	居間・台所・寝室が必須の3要素となる
5	58	設計	宅地や規模に合わせた室の配置 (必須3要素を優先)(土地と家の関係が第一) 間取りの次は扉・窓・暖炉の配置	住人自らが設計(に参加)することの意義 土地の図面を正確に取ることの重要性 構造や空気の流通を理解しておく必要性
6	78	構造	木造の有用性、地形・軸組・小屋組の要点 屋根葺材料の種類と特徴	地下室・屋根裏の有効活用
7	98	外廻り	外壁の選択 (漆喰・コンクリート、防湿紙の紹介)	建物に合った仕上げ、日本風の応用
8	122	スタイル	風土に合った建築様式、和洋折衷の方向性	日本人には米国式バンガローが向いている
9	136	内部	家庭的な生活のための装飾、各部仕様の紹介 木材の選択と塗装との相性	部屋の性格に合わせた仕上げを意識 経費とその効果を意識した材料選び
10	170	管と線	電灯・電鈴配線、水道配管、暖房装置 浴場・洗面所・流し場は水と熱湯が必要 (寝室で洗面することの必要性は少ない) 下水・汚水の処理	水槽は台所・浴室に近い屋根裏に、強化梁と防水床 湯沸器(ボイラー)は台所か地下室に 鉄管は重鉛引きの厚いものを推奨 屋外の汚水溜めに集め、浅く埋めた土管で畑へ導く
11	182	庭	質素な家に広い庭、農作業のある暮らし 西南隅に森林と小路、芝生の中へ飛石の路 建築物の表面に緑葉の衣(蔓性の植物)を	敷地300坪が理想、なるべく自給自足をめざして 芝生の一面は子供の遊び場として土のままにも 壁へ付けた荒い格子形の部材へ巻き付けると壁のためにもよい
12	197	門、塀	門柱や石垣の石は現地産で簡素に	その土地の農家などにしてあることは必ずその土地に適しているに違いない
13	202	装飾、配置	室に応じた敷物・窓掛・家具等の選択	素材や色、寸法など全て計画をもって選ぶ 家具はなるべく丈夫で簡単なものに
14	234	ガレージ	不燃資材で建築するのが適当	車庫といえども小さい家として建築するのが宜しい
15	236	スチューディオ	仕事場の設置について	居住空間との関わりを意識した配置
16	237	スクリーン(金網)	建具と網戸の組み合わせ、金網の種類を紹介	蚊帳と寝台の相性が悪い点を解消できる
17	239	畳寝室	冬に取り外して保管し易いものが適当	専用金具は輸入品となるため、釘などで固定して対応
18	242	便所の臭い	寝室を取らない間取りとして紹介	経済的な利点と住人の性質による向き不向きがある
19	247	ハウスポード(船の家)	水洗式の評価	上下水道の設備が不可欠となる
20	251	理想村	休息や療養のための家の一つとして紹介	衛生面は良好だが、十分な防水対策と非常時の避難方法を考慮
21	257	理想の実現	生活様式を通しての改革を提唱 楽しき家にて楽しく生活するために	昔風の小さな農村ではなく、現代人が心地よく住める文明の生んだ村を 一生の大部分を費やしている場所について考えることの必要性

じた生活のあり方、家族と過ごす時間の大切さを洋風住宅に見出し、その長所を解説しています。次に、どの様に造れば実現していけるのかを、間取り、構造、外装、内装、設備の順に述べています。建物本体に続いて、敷地との兼ね合い、室内の装飾など、その建物での生活をより豊かなものとしていく工夫点を述べます。最後には、そうした住宅による暮らしを個人レベルではなく共同体レベルで行うことについて語って締めます。

間取りをみると、1階では居間、2階では寝室といった部屋を南側の庭に面した部分に配置しています。さらに、食堂は夕食時に西日を避けられるよう、子供部屋は朝日が入るよう、東側に集めています。扉や窓などは、1階と2階とで上下に並べて配置されています。電気・ガスを除いた設備類は、建物北東の地下室、台所、浴室、屋根裏に集約させています。そして、伊作氏が大切に考えた、「人工的である建物と自然である庭との調和」のために、外壁は玉砂利入りの砂漆喰塗り（著書では「漆喰コンクリート」と表現されます）で凹凸と色味に変化のある仕上げとし、蔦を這わせました（図1、写真1～8）。

以上からも、現在の建物で試みた内容に基づいて『楽しき住家』を著したことは明らかです。



写真1 南側の様子（大正7～8年頃）

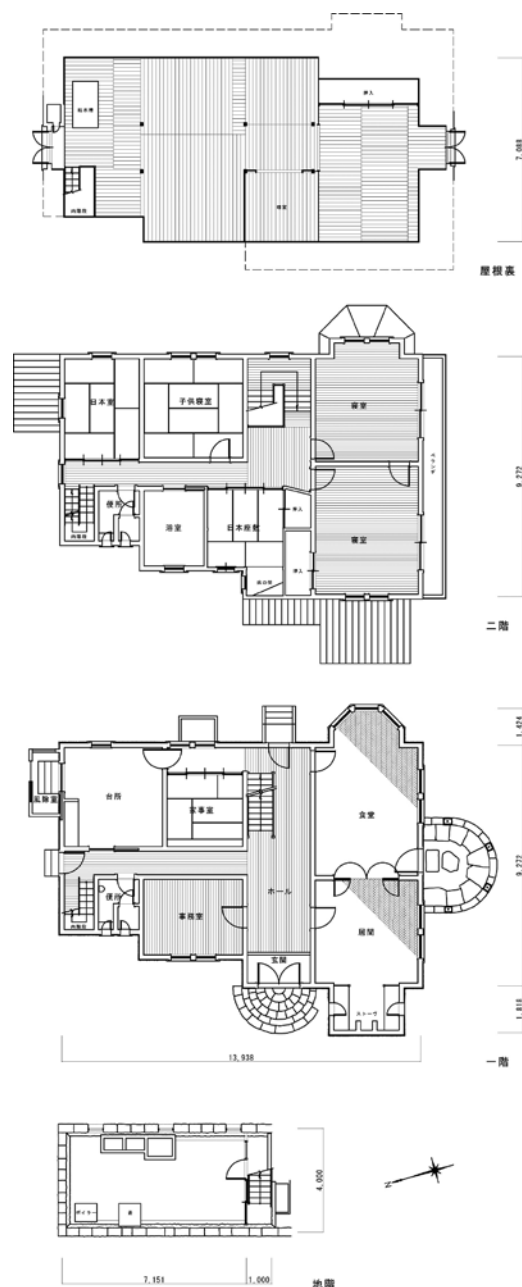


図1 旧西村家住宅の各階平面図



写真2 東側の様子（大正7～8年頃）



写真3 建物北東に集められた設備類（地下水を貯水槽へ汲み上げ、地下室のボイラーへ下ろして温め、浴室などへ給湯しました）



写真7 食堂の床下に配された暖房設備（ボイラーの余熱は温風としても利用されました）

さらに、そのなかでも特に力を入れて述べられている、第5章「設計」と第9章「内部」についても、少し詳しく紹介します。表2は、第5章で各室や要素ごとに述べられた伊作氏の意見を抽出し、それらが現在の建物ではどの程度実践されたのかを「自邸での実践度」として整理してみたものです。同様に、第9章の内容で特徴的なものを拾い出したのが表3です。いずれも伊作氏の住宅に対する考えがよく伝わって来るもので、その実践度も高いです。



写真4 屋根裏に置かれた貯水槽



写真5 貯水槽まわりの床組の構成（貯水槽下の部分は強化されています）



写真6 地下室のボイラーと配管（左脇は竈）

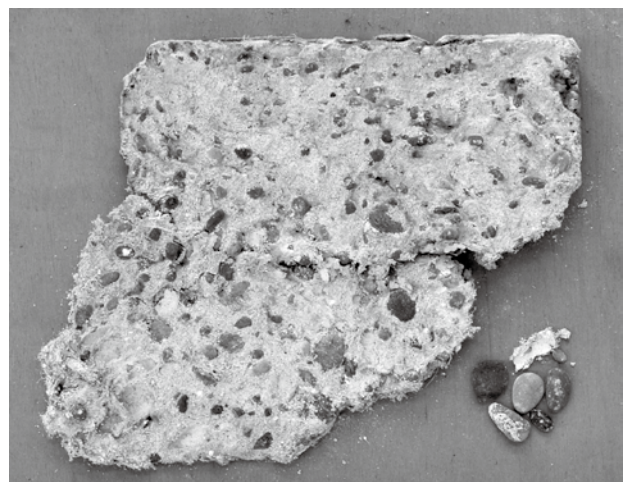


写真8 玉砂利入り漆喰塗りの外壁
→玉砂利は大きさ5～35mmで若干の貝殻片を含み、海浜由来のものと考えられます
→この仕様は、大正14年設計の高芝伝道教会（現・紀南教会）や同15年設計のチャップマン邸でも採用されています

表2 第5章「設計」で述べられる各室に対する伊作氏の考え

1. 室の大きさ、各室の体裁、造付棚の有用性		自邸での実践度
居間	南向き、日当たり良好、窓は大きく、長方形平面、張出も有効	○
食堂	東or東南or東北向き、明るく涼しい、窓からの景色が良好 夕日に注意	○
台所	棚・流し場・竈の配置、衛生面、通風・換気の計画	○
玄関・便所	残った場所に配置	○
ポーチ・ ヴェランダ	南・東向きが主、庭に向かって、食堂・居間から出られるよう 夕日のための西向きも 台所に続く裏ポーチも	○ × ○
寝室	二階建なら東南・東向き、平屋建なら東向き、ベッドの配置を元に設計 露台・バルコニーへ出られるよう	○ ○
浴室	台所の真上か近くに	○
地下室	台所の下か近くに、狭すぎないよう	○
階段	途中に踊り場設置、らせん階段は危険多し	○
ホール(広間)	廊下の広いものだが、融通の効く室	○
2. (間取りの次に) 扉・窓の位置・大きさ、暖炉の位置		自邸での実践度
暖炉	火を囲むことによって得られるもの、経済面を考慮すれば火鉢でも十分か 構造を理解する必要性あり 蒸気・熱空気による暖房や鉄製の置きストーヴでは不適當	△ ○ ×
扉(ドア)	室の隅から20～30cm離して、額縁を納めるために 壁面中央だと場所を塞ぐ 90度だけ開けば宜しい	○ ○
引込戸	応接室や食堂とホールとの間、開放的となる 壁面中央が開くように	△ △
窓	階上と階下が一直線上に重なるように、揃えられるだけ揃えるべき 割合大きく 夏期の風向きを知って、各室を風が流通するように 日本座敷でもできるだけ窓を付けるように	○ ○ ○ ○ ○
床から天井迄 の高さ	1階は8～9尺、2階は8尺	○
屋根	イングルヌックなど小空間を低くする	○
バルコニー・ 露台	その地方の民家を参考に、市街地なら陸屋根もあり 予算次第、雨仕舞いに注意	? ○
		防水シート

表3 第9章「内部」で述べられる伊作氏の考え(特徴的なもののみを抽出)

主 な 項 目	具 体 的 な 内 容	自邸での実践度
内部の木質	クリ・ナラ・シオジ・カシなど堅木を推奨	○
木製床板	厚8分、幅3寸内外、合決りor実入れに張る 寄木細工の床、なるべく二重に張る、下床厚8分、上床厚3分 モミ・スギで下張り、膠で接着、鉋仕上げ	○ ○
その他の床	台所や浴場などはセメント塗りorタイル張りが適當 弁柄などで色付けしたセメント塗りも有効	○ ○
壁	室内の壁は日本風の土壁が適當 色砂を糊で練ったもの、色土へ糊や砂を混ぜたもの 台所など、漆喰塗りの上にペンキ塗りをかけるのが適當	○ ○ ○
タイル張り	浴場や便所の壁張りに有効、上方は漆喰塗りで十分 着色は不適、陶製無地白釉が適當、浴場は必ず白色、目地は石膏塗り	○ ○
窓・扉の額縁	外部は各室同一の形式に、内部は室に適當な意匠に、なるべく簡単に 台所などは最も単純(垢が溜まないよう)に、客室や食堂は幾分装飾的に	○ ○
内法の見切	各室とも、長押の様なものが必要、額などを釣るために 建築物には直接に絵や模様を付けない(取替可能な)方が賢明	○ ○
天井	白の漆喰塗りが最適(明るく仕上がり良い)、クリーム色を帯びさせると柔らかさも 簡単な飾り紐(モールディング)や花形も有効 漆喰に糊とスサを豊富に用いるよう厳重に監督すること 梁形や竿縁、格天井による装飾も有効、日本風の天井は不適 廊下・台所などは白無地の漆喰塗り 寝室は飾り紐や竿縁で装飾した白漆喰塗り	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
屋根裏	屋根に天窗、瓦葺きの場合は天窗用の瓦を用いて蓋を開閉させる	○ ○
扉・戸	高さ6尺3寸程度(6尺5寸あると高い位)、幅2尺7～8寸が適當 便所などは幅2尺3寸位に狭める 食堂と応接間の間、居間とホールの間などは引込戸が適當 玄関入口の扉は上方にガラスを入れたものが適當、扉の上に窓を作ることも有効	○ ○ ○ ○
階段	ケヤキなど堅木を用い、踏み板は厚1寸以上に 蹴上高と蹴込幅との関係は慎重に、蹴上高6寸位、蹴込幅9寸～1尺が標準	○ ○
室内の木部塗装	「室内に現れる木の部分は必ず何かで塗らねばなりません」 素木は避け(汚れ易く、取り難い)、蠟引きやニス・ラック塗りを推奨 木の肌を見せずに塗りたい時はエナメル塗りが適當、浴室や便所や台所の内部で有効	○ ○ ○
外部の木部塗装	「家の外部、雨のかかるところの木部分はすべてペンキ塗りが宜しい」 「白亜の壁には錆色ペンキがよく似合います」	○ ○
		軒裏は弁柄塗

伊作氏の住宅に対する思い

調査を進めるなかで、伊作氏の住宅に対する思いの根底には、子供たちの成長、教育の場という思いが強いと感じます。それは、著書の冒頭に示され、子供の部屋や遊びへの配慮の記述も多いこと、また、我が子が誕生するごとに家族ないしは子供たちの集合写真を撮影していることなどからもうかがえます。

そして、そのことがこの後の文化学院の設立を始めとした、教育のあり方への提言や実践に結び付いていきました。その先には、世界と対等に渡り合える国・日本をめざした伊作氏の思いがあった様です。

その原点となるべき住宅、当時の言葉で「住家」に込められた伊作氏の思いを大切にしながら、今回の修理に臨んでいます。(下津 健太朗)

平成 28 年度の普及活動

○埋蔵文化財に関する普及事業

- ・報告会
和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」
- ・和歌山県内埋蔵文化財調査成果展
「紀州のあゆみ」
- ・発掘調査現地説明会・現地公開
「中飯降遺跡」、「寺内古墳群、相方遺跡（第 2 次）」、
「新宮城跡、新宮城下町遺跡」、「藤並地区遺跡（第 2 次）」、
「吉原遺跡」

○文化財建造物に関する普及事業

- ・重要文化財宝来山神社修理現場公開
- ・宝来山神社修理完成記念公開
- ・重要文化財旧西村家住宅現場公開
- ・県指定史跡切部王子社殿現場公開

埋蔵文化財に関する普及事業

平成 28 年度の普及啓発事業として埋蔵文化財関係では文化財調査報告会、埋蔵文化財調査成果展の 2 件の事業を実施した。また、県内の各発掘調査現場において現地説明会・現地公開を開催した。

このほか、季刊情報誌「風車」の刊行を作成し、周辺自治体及び研究機関等に配布した。

文化財調査報告会 「地宝のひびき」

平成 28 年 7 月 16 日に和歌山県立図書館（きのくに志学館）2 階講義・研究室において、前年度の埋蔵文化財調査の成果などを知って頂くため、和歌山県内文化財調査報告会と題して開催した。

発表は、「蘇える岩橋千塚の王墓―天王塚古墳の発掘調査―」田中元浩（和歌山県教育委員会）、「大池遺跡と火山灰考古学―旧石器時代から縄文時代の遺跡調査―」、藤藪勝則（（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団）、「中世荘園の再開発拠点？―寺内古墳群、相方遺跡の発掘調査―」村田弘（（公財）和歌山県文化財



地宝のひびき 会場風景

センター）、「住民との協働―佐野廃寺の県史跡指定―」（かつらぎ町教育委員会）、「新宮城武家屋敷と中世の物流拠点―新宮城下町遺跡の発掘調査―」川崎雅史（（公財）和歌山県文化財センター）、「御坊市小松原銅鐸・亀山城跡―新規県指定文化財の紹介―」丹野拓（和歌山県教育委員会）である。参加者数は、89 名であった。

和歌山県内埋蔵文化財調査成果展 「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された埋蔵文化財関係の調査成果を県民等に公開することを目的に、岩出市民俗資料館で成果展を実施した。展示を行った遺跡は、平井遺跡、寺内古墳群、相方遺跡（第 1 次）、和歌山城跡、小松原Ⅱ遺跡、湯川氏館跡、新宮城下町遺跡で、新規県指定の文化財として、小松原銅鐸を展示した。展示期間は、平成 28 年 11 月 2 日～11 月 28 日、見学者は 560 名であった。



紀州のあゆみ 展示風景

発掘調査現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査成果を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の現地説明会・現地公開を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に多数の参加者を得ることができた。現地説明会・現地公開を開催した遺跡と開催日及び参加者は、新宮城跡、新宮城下町遺跡（第 1 次）（第 2 回）（平成 28 年 5 月 21 日）200 名、藤並地区遺跡（第 2 次）（平成 28 年 8 月 10 日）10 名、吉原遺跡（平成 28 年 9 月 10 日）30 名、寺内古墳群、相方遺跡（第 2 次）（平成 28 年 10 月 2 日）42 名、中飯降遺跡（平成 28 年 12 月 10 日）43 名であった。



新宮城跡、新宮城下町遺跡現地説明会風景



吉原遺跡現地公開風景



寺内古墳群、相方遺跡（第2次）現地説明会風景



中飯降遺跡 現地説明会風景

文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元の教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。また現場によっては施工業者による実演を実施してもらった。主な公開は次のとおりである。

このほか旧西村家住宅においてヘリテージマネージャー講習会（和歌山県建築士会開催）の受け入れや宝来山神社・切部王子跡で地元小中学校の児童・生徒の見学会等に対応した。

重要文化財宝来山神社修理現場公開

4月9日、10日 解説8回実施 参加者約210名



宝来山神社での修理現場見学会の状況

宝来山神社修理完成記念公開

9月24日、25日 解説6回実施 参加者約200名

重要文化財旧西村家住宅

11月19日（土）参加者26名（市による募集人数）

県指定史跡切部王子跡社殿

3月15・16日 3月24・25日 参加者約190名



切部王子跡での檜皮葺き職人による実演

(公財)和歌山県文化財センター 平成 28 (2016) 年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	6 件
埋蔵文化財遺物整理等受託業務	4 件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	4 件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	19 件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議会

理事会	28.06.01	アバローム紀の国
評議会	28.06.24	アバローム紀の国
理事会	28.11.21	和歌山県自治会館
理事会	29.03.21	アバローム紀の国

調査指導

新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査の屋敷地の石垣について (新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査等業務)	28.04.06	北垣 聡一郎 (石川県金沢城調査研究所) 於：新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査現場
新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査の中世の遺構について (新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査等業務)	28.06.01	時枝 務 (立正大学) 於：新宮城跡、新宮城下町遺跡発掘調査現場
第 1 回 調査委員会 寺内古墳群、相方遺跡調査について 廣瀬 寛 (独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所) 中村 貞史 (公益財団法人和歌山県文化財センター理事) 若林 邦彦 (同志社大学歴史資料館)	28.09.27 28.10.03	於：寺内古墳群、相方遺跡発掘調査現場 於：寺内古墳群、相方遺跡発掘調査現場
第 2 回 調査委員会 新宮城、新宮城下町遺跡発掘調査について 鈴木 久男 (京都産業大学)、松尾 信裕 (大阪歴史博物館)	29.03.16	於：和歌山県文化財センター

埋蔵文化財関係

平成 28 年度第 1 回 (第 53 回) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議	28.06.03	主催：(公財) 和歌山市文化スポーツ振興財団
第 37 回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	28.06.16、17	主催：鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター
平成 28 年度第 1 回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	28.08.01	主催：(公財) 京都市埋蔵文化財研究所
平成 28 年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	28.09.29、30	主催：(公財) 山形県埋蔵文化財センター
第 30 回全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック事務担当者会議	28.11.18	主催：(公財) 和歌山県文化財センター
全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック埋蔵文化財研修会	28.11.25	主催：(公財) 兵庫県まちづくり技術センター
平成 28 年度第 2 回 (第 54 回) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議	29.02.10	主催：(公財) 滋賀県文化財保護協会
平成 28 年度第 2 回全埋協近畿地区コンピュータ等研究委員会	29.02.17	主催：(公財) 京都市埋蔵文化財研究所
平成 28 年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議	29.02.24	主催：(公財) 向日市埋蔵文化財センター
「関西考古学の日 2016」スタンプラリー	28.07.16-28.11.30	主催：「関西・考古学の日」実行委員会 (全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック)

文化財建造物関係

平成 28 年度文化財建造物保存修理事業等監督者会議	28.04.14	主催：文化庁
平成 28 年度文化財建造物保存事業技術者養成教育	28.05.23-27	主催：（公財）文化財建造物保存技術協会
	06.13-17	
	07.25-29	
	08.22-26	
	09.05-09	
	09.26-30	
	11.07-11	
	11.28-02	
	12.12-16	
	29.01.16-20	
	02.13-17	
	03.06-10	
平成 28 年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会（第 62 回）	28.10.24	主催：文化庁
平成 28 年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会	28.10.25、26	主催：文化庁
	11.07-11	主催：（公財）文化財建造物保存技術協会

委員委嘱

藤井 幸司	和歌山県商工観光労働部所管公募型プロポーザル方式等事業者選定委員	28.10.03-28.10.31
村田 弘	紀の川市文化財保護審議委員	28.04.01-29.03.31
村田 弘	名手本陣保存整備委員会委員	28.04.01-29.03.31
村田 弘	紀の川市河川整備委員会委員	28.04.01-29.03.31
川崎 雅史	御坊市文化財保護審議委員	28.04.01-29.03.01
川崎 雅史	みなべ町文化財保護審議委員	28.04.01-29.03.01
結城 啓司	金剛峯寺境内（奥院地区）大名墓総合調査委員会	28.04.01-29.03.31

III 講師等派遣・執筆など

埋蔵文化財関係

川崎 雅史	「今回の調査で解った亀山城址の文化・歴史的意義について」丸山区民総会講演会	28.04.17	於：御坊市丸山中央集会所
川崎 雅史	「御坊市の遺跡」和歌山県職員退職者会日高支部平成 28 年度総会並びに講演会	28.05.18	於：御坊市花ご坊
藤井 幸司	水中遺跡調査検討委員会に関する協力者会議	28.05.17、18	於：九州国立博物館
藤井 幸司	「紀伊山地の霊場への参詣道について～なぜ追加登録だったのか～」平成 28 年度第 2 回世界遺産セミナー講演会	28.07.31	於：世界遺産熊野本宮館多目的ホール
川崎 雅史	「丹鶴で、どれくらいもん出たらして！」熊野新宮遺跡発掘調査説明会	28.08.26	於：新宮市福祉センター
藤井 幸司	「紀伊における平井遺跡出土埴輪の位置づけについて」平成 28 年度和歌山県紀伊風土記の丘秋期特別展セミナー（第 4 回）	28.11.06	於：和歌山県立紀伊風土記の丘
川崎 雅史	「亀山城跡新発見の遺構をめぐる」和歌山城郭調査研究会	28.11.06	於：県指定史跡亀山城跡
藤井 幸司	水中遺跡調査検討委員会及びデジタル技術の活用に関する調査検討委員会協力者会議	28.11.24、25	於：航空会館
川崎 雅史	「和歌山県すさみ町・立野遺跡の調査結果について～弥生時代前期の木製品生産遺跡～」考古学研究会関西例会	28.11.26	於：和歌山県立紀伊風土記の丘
金澤 舞	「吉原遺跡発掘調査」御坊ロータリークラブ例会卓話	29.03.10	於：御坊商工会館
藤井 幸司	「世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産」『神々が宿る聖地 世界遺産 熊野古道と紀伊山地の霊場』		28.12.05 発行

文化財建造物関係

多井 忠嗣	「宝来山神社保存修理 現場公開」解説	28.04.09、10	於：宝来山神社
寺本就一・多井 忠嗣・出口由香子・下津健太朗	「宝来山神社修理現場公開」解説	28.04.09	於：宝来山神社
寺本 就一・結城 啓司	「平成 28 年度第 3 回養成教育受講生引率」	28.07.29	於：根来寺、粉河寺、金剛三昧院

多井 忠嗣	和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会「文化財建造物の修復」	28.08.20	於：和歌山県建築士会館
寺本 就一	民家ガイドツアー 「旧柳川家住宅・旧谷山家住宅」	28.04.30	於：紀伊風土記の丘
	民家ガイドツアー 「旧谷村家住宅・旧小早川家住宅」	28.09.11	於：紀伊風土記の丘
多井 忠嗣	「重要文化財宝来山神社本殿見学会」解説	28.09.24、25	於：宝来山神社
結城 啓司	「安楽寺多宝小塔修理成果報告会」	28.10.01	於：鳥屋城公民館
下津 健太朗	「旧西村家住宅 修理現場見学会」	28.11.19	於：旧西村家住宅
下津 健太朗	「旧西村邸の修復工事に携わって」研究会講演	29.01.18	於：新宮市井の沢隣保館
下津 健太朗	和歌山県ヘリテージマネージャー養成講習会 「重要文化財旧西村家住宅修理現場解説、文化財修理計画演習」	29.02.04	於：旧西村家住宅
結城 啓司	博物館講座②「重要文化財安楽寺多宝小塔の保存修理とその結果」	29.02.18	於：和歌山県立博物館
寺本 就一	「紀の川流域にみられる民家の魅力」民家を後世に伝えるために	29.03.26	於：岩出市民俗資料館
下津 健太朗	「和歌山県 重要文化財旧西村家住宅主屋ほか二棟 新現場紹介ー自由思想家たちと向き合いながらー」 『文建協通信 No.126』	28.10	発行
結城 啓司	「和歌山県 重要文化財安楽寺多宝小塔ー多宝小塔に用いられている技法ー」 『文建協通信 No.126』	28.10	発行
結城 啓司	「重要文化財 安楽寺多宝小塔の保存修理ー復原考察と現状変更についてー」 『平成 28 年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会 発表報告集』	28.10	発行
結城 啓司	安楽寺多宝小塔の概要と保存修理について『有田川中流域の仏教文化 ー重要文化財・安楽寺多宝小塔修理完成記念ー』企画展览展示図録	29.01	発行
結城 啓司	「〈修復トピックス〉重要文化財安楽寺多宝小塔の保存修理より判明した建築的特徴」 『建築史学』第 68 号	29.03	発行

Ⅳ 刊行図書・出版物等

年報

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2015』	28.05.31	発行
----------------------------	----------	----

埋蔵文化財課関係

調査報告書

『古原遺跡ー都市防災総合推進事業に伴う発掘調査報告書ー』	29.02.17	発行
『寺内古墳群、相方遺跡ー和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称） 和歌山南スマートインターチェンジ建設事業、海草振興局建設部庁舎移転外事業に伴う発掘調査報告書ー』	29.03.03	発行
『中飯降遺跡ー一般国道 24 号京奈和自動車道（紀北東道路）改築事業に伴う発掘調査報告書ー』	29.03.31	発行
『根来寺遺跡、山口古墳群ー一般国道 24 号京奈和自動車道建設に伴う発掘調査報告書ー』	29.03	発行
『平井遺跡、平井Ⅱ遺跡ー第二阪和国道建設に伴う発掘調査報告書ー』	29.03.31	発行

現地説明会資料

「新宮城跡、新宮城下町遺跡（第 1 次）」現地説明会資料（第 2 回）	28.05.21	発行
「藤並地区遺跡（第 2 次）」現地公開資料	28.08.10	発行
「古原遺跡」現地公開資料	28.09.10	発行
「寺内古墳群、相方遺跡（第 2 次）」現地説明会資料	28.10.02	発行
「中飯降遺跡 大型竪穴建物移設復原作業」現地公開資料	28.12.10	発行

報告会・シンポジウム資料等

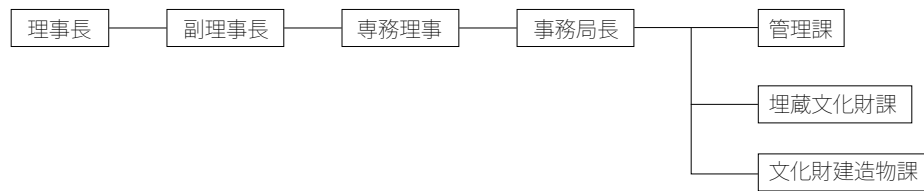
『地宝のひびきー和歌山県内文化財調査報告会ー』資料集	28.07.16	発行
『紀州のあゆみ』展示リーフレット	28.11.02	発行

埋蔵文化財と文化財建造物のミニ情報誌（公財）和歌山県文化財センター通信『風車』

第 75 号 特集「安楽寺多宝小塔の保存修理」	28.06.30	発行
第 76 号 特集「寺内古墳群、相方遺跡 第 2 次発掘調査の概要」	28.09.30	発行
第 77 号 特集「旧西村家住宅の保存修理」	28.12.28	発行
第 78 号 特集「山口古墳群、根来寺遺跡の出土遺物整理」	29.03.31	発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮下 和己	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井上 雅幸	元和歌山県参事
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理事	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 館長
理事	鈴木 嘉吉	元奈良国立文化財研究所 所長
理事	中村 貞史	元大阪経済大学非常勤講師
理事	西川 秀紀	宗教法人東照宮 代表役員
理事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会会長
理事	水田 義一	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長

役員（監事）

監事	風神 正典	税理士・風神会計事務所 代表社員
監事	楠 義隆	和歌山県教育庁 生涯学習局長

評議員

井藤 徹	日本民家集落博物館 館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 院代
加藤 容子	元和歌山県教育委員会 教育委員
佐々木公平	宗教法人広八幡神社 代表役員
千森 督子	和歌山信愛女子短期大学 教授
苗代 吉登	和歌山県立博物館 副館長
水上 勇人	和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課長
山陰加春夫	高野山大学 名誉教授
米田 良博	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長

職員

事務局長 南 正人

参 与 寺本 就一（28.10.01 ～文化財建造物課課長事務取扱）

管理課

主 査	松尾 克人
副 主 査	出口 由香子
副 主 査	中野 一三

埋蔵文化財課

課 長	土井 孝之
主 査	藤井 幸司
副 主 査	村田 弘
副 主 査	佐伯 和也 (28.10.01 ～ 29.03.31 公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団派遣)
技 師	川崎 雅史
技 師	金澤 舞
技 師	加藤 達夫

文化財建造物課

課 長	多井 忠嗣 (28.11.01 ～ 自己啓発休業)
副 主 査	下津 健太朗
副 主 査	結城 啓司
技 師	大給 友樹
技術補佐員	松井 美香 (28.11.16 ～)

表紙図案

表紙右上	根来寺遺跡出土鬼瓦
表 紙 下	安楽寺多宝小塔 修復前正面図
裏 表 紙	安楽寺多宝小塔 復原正面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2016

2017 年 5 月 31 日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の 1
TEL 073-472-3710
FAX 073-424-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>
E-mail: maizou-1@wabunse.or.jp

【印刷】

白光印刷株式会社

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>

